

# 神緑会ニュースレター

第5巻 第4号

発行日 2014年2月28日



改修後の研究棟D（旧共同研究館）



神戸市立湊翔楠中学校の屋上より



研究棟D（旧共同研究館と右側増築部分）



神緑会館前の花壇

目次	ページ
神緑会臨時社員総会と新春学術講演会	3
学術講演会 講演 - 「神戸大学における女性医師の就労活性化の取り組み」 錦織千佳子	6
学術講演会 講演 - 「麻酔科学教授就任にあたっての抱負」 溝渕 知司	7
教授就任並びに栄誉者等一覧	10
平成25年物故会員	12
メモリアル 田邊 渉先生 佐々木 勉 山中 伸弥 千葉 勉	13
医学研究科・医学部の現況と課題 片岡 徹	16
基礎臨床融合と研究医育成について 中村 俊一	21
耳より情報 百合岡事務所	22
明治期の神戸病院の跡地を尋ねて 寺島 俊雄 薛 富義	23
京都大学 iPS 細胞研究所 (CiRA) 便り 渡邊 文隆	28
山中伸弥先生による「神緑会感謝の集い」に出席して 梶田 明義	30

目次	ページ
厚生労働省関係者による講演会を開催	31
神戸大学病院外来担当医一覧表	33
第100回日本消化器病学会総会会長挨拶 坂本 長逸	35
神緑会会員名簿2013(平成25年版)の訂正のお願い	36
同窓会報告 神戸大学医学部昭和48年卒業生 森 幸三郎 卒後40周年記念同窓会	37
支部だより 神緑会芦屋支部 須山 徹	40
第3回神戸マラソン完走記 坂本 岳史	41
第3回神戸マラソンの救護班に参加して 千谷 容子	42
第45回医学教育学会 「PBL・チュートリアル」口演発表 佐藤 文	43
学生文化部・運動部紹介 ソフトテニス部、硬式テニス部、ヨット部、水泳部、柔道部、剣道部、バレーボール部、競技スキー部、ハンドボール部、フットサル部	46
篤志家からのご寄付	52
新病院長に藤澤教授	52
編集後記	52



## Hospitality & MICE

国際都市・神戸のリーディングホテルとして  
これからも信頼とサービス  
をお届けしてまいります。

- ポートピアホール1,702席 スクール形式610席  
(6ヵ国語同時通訳設備 コンサートホール対応)
- 宴会場36室 屋外・屋内チャペル、神式場
- 客室745室 ■高速LAN全館完備
- ゲストサービスサロン
- エグゼクティブフロア「オーバルクラブ」
- レストラン&バー など13店
- 室内・屋外プール テニスコート ジム サウナ
- エステティックサロン ショッピングアーケード
- 駐車場450台収容
- 「三宮」「新神戸」とホテルを結ぶ  
シャトルバス(無料)20分に1本運行中

ご予約・お問い合わせは…

Tel.078-302-1111

ユニバーサル・スタジオ・ジャパン®アソシエイトホテル



ポートピアホテル

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6丁目10番地1  
ホームページ <http://www.portopia.co.jp>

HYOGOKEN IRYOU CREDIT UNION (HICU)

 兵庫県医療信用組合

兵庫の医療・医薬に関わる皆さまと共に歩む専門金融機関です

### " 特別金利キャンペーン "

キャンペーン期間：平成26年3月末まで

	介護・福祉 事業ローン	事業性ローン	住宅ローン	オートローン
(1) 特別金利	<b>年1.350%</b>		<b>年1.000%</b>	<b>年1.550%</b>
(2) 標準金利	年1.550%		年1.100%	年1.650%
(1) - (2)	<b>▲0.200%</b>		<b>▲0.100%</b>	<b>▲0.100%</b>

NEW!

平成25年12月より

『マイカーローン(勤務医専用)』

- の取扱いを開始しました
- ◇ お使いみち : 自家用車のご購入
  - ◇ ご融資限度額 : 500万円
  - ◇ ご融資期間 : 5年以内

◎その他の商品についても取扱いを行っておりますので、詳しくは各営業店の融資担当者までご相談ください。

※1 本商品は変動金利型の商品です。

※2 金利情勢等により、内容の変更を行う場合がございます。

※3 お借入に際しましては原則、社保または国保の振込指定が必要です。

※4 審査の結果によってはご希望に添えない場合がございますので、あらかじめご了承願います。



(平成26年2月1日 現在)

本店営業部 〒651-0086 神戸市中央区磯上通3-2-17  
Tel : 078-241-5201

姫路支店 〒670-0937 姫路市元塩町121  
Tel : 079-282-0177

尼崎支店 〒661-0012 尼崎市南塚口町4-4-8  
Tel : 06-6426-6288

西宮支店 〒662-0911 西宮市池田町13-2  
Tel : 0798-36-1010

特集

## 神緑会臨時社員総会と新春学術講演会

～ 2月1日(土) ～

一般社団法人神緑会 平成25年度 臨時社員総会並びに平成26年新春学術講演会を、平成26年2月1日(土)に神戸大学医学部会館シスメックスホールにおいて開催いたしました。

臨時総会に先立ち、昨年中にご逝去されました会員の方々の御霊に黙祷をささげました。

午後3時5分前に前田会長から、総会開催に向けて多数の方々からご協力をいただいたことに対する謝辞があり、続いて、定款に定める開催要件を満たしていることを報告して開会を宣言しました。

### 会長あいさつ



前田会長の挨拶

本日は、ご出席いただき大変有り難うございます。また、日頃は、神緑会の運営にご協力いただき有り難うございます。特に、各支部におかれましては、総会開催のためのチケット販売について格段のご協力をいただき有り難うございました。

昨年の6月、定時総会で新しい定款による役員選挙を初めて実施しました。新たな理事会で適切な運営に努めております。クラス代表二人制の徹底とホームカミングデイにおける各対象学年同窓会の開催、名簿の発行、学術誌とニュースレター年4回の発行などです。また、山中伸弥京都大学iPS細胞研究所長のノーベル賞受賞に伴う寄附活動を呼びかけ、12月22日神戸での「山中先生による感謝の集い」が開催されました。

女性理事、61年卒の千谷先生の誕生で、山口先生、平井先生に次いで3人目です。本日の講演で錦織先生の講演を予定していますが学生では30%以上の女子学生がいますので女性医師問題に取り組んで参ります。

来年度は明治2年の神戸病院の設立から145周年、昭和19年の医学専門学校の発足から70周年です。将来計画委員会での検討を経て答申を得ました。会員のご理解を得つつ来年度には記念事業を適切に進めたいと思っています。

本日の総会では、表彰者が多く、2つの講演、その後の懇親会と長時間になりますがご協力をお願いします。

### 審議経過

大竹委員長による  
名簿編集委員会報告

臨時総会では、学術委員会と学術誌編集・広報委員会からの報告、本年1月18日の理事会において運営規則の一部改正が行われたことの報告がされました。

続いて、平成25年度補正予算や平成26年度事業計画、平成26年度予算について報告が行われ、いずれも了承されました。

また、同窓会神緑会臨時総会では、平成26年度同窓会神緑会予算について了承され、昨年11月に発行された「会員名簿(2013年)版」について報告がされました。

前田会長から「理事会では、一般社団法人と同窓会の神緑会会計の一本化に向けて検討中です。以前の公益社団法人では、収益事業が禁止されていたためです。唯一の収益事業の会員名簿発行を社団法人として行う方向で、6月の定時総会で定款変更を提案する予定です。なお、支部活動についても、支部会計は社団法人に含まれないので新定款作成時の内閣府審査で評議員



総会風景

会は認められないとの指導があったが、組織運営上どうしても必要と要望し、現在の定款に既に含まれています。最小の定款変更で対応できると考えます。」との報告がありました。

### ◆ 新任教授・栄誉者 等のご紹介

平成26年の新春行事として、新任教授、栄誉者等のご紹介を行い、新任教授・病院長等、並びに栄誉者を代表して、片岡医学研究科長・医学部長にご挨拶をいただきました。また、懇親会に出席できない方々には短時間ではありましたがご挨拶をお願いいたしました。



片岡 徹 医学研究科長のご挨拶



青井 貴之先生



西村 隆一郎先生



中崎 久雄 大磯町長



豊田 俊先生

## ◆ 平成26年度 一般社団法人神緑会 事業計画書

- 1) 地域における疾病並びに医療等に関する研究調査(定款第7条第1号該当事業)(予算総額 1,500,000円)
- 「我が国およびインドネシア国慢性肝疾患における疾患進行に関わる因子の解析」 予算 500,000円  
研究調査班代表者：神戸大学大学院医学研究科 感染病理学分野 講師 矢野 嘉彦  
研究協力者：林 祥剛(神戸大学大学院医学研究科感染病理学/病理病態学分野)  
Widya Wasityastuti、Laura Navika Yamani(神戸大学大学院医学研究科 感染病理学)
- 「iPS細胞を用いる医学研究の基盤形成」 予算 500,000円  
研究調査班代表者：公益財団法人先端医療振興財団 川真田 伸  
研究協力者：青井 貴之(神戸大学大学院医学研究科 iPS細胞応用医学分野)  
大嶋 野歩、武田 匡史、佐々木 勉(京都大学 iPS細胞研究所)
- 「公衆衛生行政(保健所)医師の育成・確保とその役割に関する研究調査  
～公衆衛生行政の現状と課題をふまえて～」 予算 500,000円  
研究調査班代表者：神戸市保健所 所長 伊地智 昭浩  
研究協力者：西尾 久英、西村 範行(神戸大学大学院医学研究科 地域社会学・健康科学講座疫学分野)  
河原 啓二(姫路市健康福祉局) 今井 雅尚(兵庫県加東保健所)
- 2) 学術講演会等の開催(定款第7条第2号該当事業) (予算総額 2,000,000円)
- 3) 教育研究・学術交流援助(定款第7条第3号該当事業) (予算総額 3,800,000円)
- 本会学術委員会の答申に基づき援助対象の医学に関する学術交流基準又は教育・研究活動基準に合致するものの選考を行い、該当者に対し、援助を行う。 予算 3,200,000円
- 本会学術委員会の答申に基づき援助対象の海外における学会発表基準に合致するものの選考を行い、該当者に対し、原則として1件につき100,000円を限度として援助を行う。 予算 300,000円
- 本会学術委員会の答申に基づき、援助対象となる女性の研究者の中から、別に定める田中千賀子学術奨励賞規定により1名の選考を行い、該当者に対して300,000円を授与する。 予算 300,000円
- 4) 学術誌の発行(定款第7条第4号該当事業) (予算総額 2,700,000円)
- 内容について学術誌編集委員会で検討し、充実したものにする。
- 5) 医学部教員の海外学習に対する援助(定款第7条第5号該当事業) (予算総額 500,000円)
- 6) 医学部学生の海外交流学习に対する援助(定款第7条第5号該当事業) (予算総額 1,500,000円)

平成26年度事業費総額 合計12,000,000円

## ◆ 学術講演会 講演 -



講演中の錦織先生

### 神戸大学における 女性医師の就労活性化の取り組み

錦 織 千佳子

#### 錦 織 千佳子(にしごり・ちかこ) プロフィール

1980年	神戸大学医学部医学科 卒業
1980年	京都大学医学部附属病院研修医(皮膚科)
1983年 - 87年	京都大学大学院医学研究科博士課程(内科系専攻)
1987年	京都大学助手(医学部・放射能基礎医学教室)
1994年	M.D. アンダーソン癌研究所(免疫学講座)ポスドクトラルフェロー
1995年	京都大学助手(医学部附属病院・皮膚科)復職
1999年	京都大学大学院講師(医学研究科・皮膚病態学)
2002年	京都大学大学院助教授(医学研究科・皮膚病態学)
2003年	神戸大学大学院教授(医学系研究科応用分子医学講座 皮膚科学分野)
2008年	神戸大学大学院教授(医学研究科内科系講座 皮膚科学分野)

専門分野 光医学、発癌、光免疫学、色素細胞学  
色素性乾皮症をはじめとする遺伝性光線過敏性疾患の診断と治療

#### 講演の要旨

昨今、女性医師の就労継続の推進のための様々な取り組みがなされています。神戸大学医学部附属病院でも、平成19年に文部科学省の補助金を得て、妊娠・育児中の女性医師(D)、看護師(N)の臨床現場への円滑な復帰を目指して情報及び教育を提供する目的で『D&N ブラッシュアップセンター』を病院内に設置しました。補助金終了後も、神戸大学医学部附属病院独自の事業として引き続き運営する事をお認めいただき、対象を女性薬剤師、検査技師、事務職員といった病院で働く全職員に拡大し、また産休・育休からの復帰だけでなく、介護休職からの復帰をも視野に入れた活動を行うべく、現在は、『D&N plus ブラッシュアップセンター』として活動を続けている状況です。本講演ではこのブラッシュアップセンターの今迄の歩みと現況をご紹介します。

発足当時、1) 妊娠・出産・育児中の女性医師、看護師に必要な様々な情報をWEBでとれるようなシステムの開発、2) 育児中の女性医師への当直免除の時短勤務制度の実施、3) 各診療科でのカンファレンスでのベビーシッターの手配、4) 職員、学生の意識調査とその啓発などを目的に活動して参りました。皆様のご協力を得て、上記、1) 2) 3) については軌道に乗って参りま



座長の栗山啓子先生



質問する児玉荘一先生

した。今なお道半ばであるのは、4)の学生並びに職員の意識改革です。

意識改革のためには学生のうちから、医師としての責任感と使命感を持って自分のワークライフバランスをどのように構築して人生設計を進めるかといった

キャリアパスの指導が重要です。先日神戸大学医学部、ブラッシュアップセンター、兵庫県医師会の共催でワークライフバランスの学生講義を開催しましたので、それについてもご紹介したいと思います。



質問する石田苑子先生



質問する千谷理事

つづいて、神戸大学大学院医学研究科麻醉科学分野教授の 溝渕 知司 先生から「麻醉科学教授就任にあたっての抱負」と題して講演が行われました。

## ◆ 学術講演会 講演 -



講演中の溝渕知司先生

### 麻醉科学教授就任にあたっての抱負

溝 渕 知 司

#### 溝 渕 知 司(みぞぶち・さとし) プロフィール

昭和60年3月	久留米大学医学部医学科卒業
昭和60年5月	岡山大学医学部附属病院麻醉科 研修医
平成6年9月	学位取得(医学博士;岡山大学)
平成8年12月	米国テキサス大学ダラスサウスウエスタン校麻醉科 研究員
平成10年10月	岡山大学医学部麻醉・蘇生学 助手
平成14年7月	岡山大学医学部附属病院麻醉科蘇生科 講師
平成21年8月	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科生体制御科学専攻生体機能制御学講座麻醉・蘇生学分野 准教授
平成25年10月	神戸大学大学院教授(医学研究科外科系講座 麻醉科学分野)

#### 講演の要旨

近年の麻醉は、手術中の患者管理だけでなく、導入覚醒の快適さや術後鎮痛の良し悪し、さらに麻醉法の相違による疾患予後の違いなど麻醉の質が問われる時代になっています。麻醉科医は不足しているといわれますが、麻醉科医の数自体は増加しています。手術件数が増加していることや麻醉から学んだ知識を活用し集中治療やペインクリニック、緩和医療などに特化していく人が増えていること等が麻醉科医不足と考えられる原因です。

我々の臨床での役割は、手術侵襲から患者を守り、外科系の先生方に安全な手術環境を提供することです。麻酔は、手術によって疾患を治療するという目的を達成するための手段であり決して目的ではありません。最近はリスクの高い麻酔症例も増えていますが、麻酔の敷居は高くしないというのが私の考えです。若い先生方には、麻酔は全身管理であること、また、患者様を何よりも最優先すること（patient first）そして麻酔科学の面白さを教育したいと考えています。その上で、麻酔薬の作用メカニズムや多臓器不全の細胞レベルでの病態さらに難治性疼痛の発生機序などの解明や新しい治療法の開発を含めた研究を行いたいと考えています。



座長の藤澤正人新病院長



質問する小川恭一先生

## 懇親会

臨時総会並びに新春学術講演会に引き続き、神緑会館多目的ホールにおいて90名もの多くの会員の皆様の参加を得て懇親会を開催いたしました。

### 前田会長挨拶



司会の宮本常務理事

本日予定の最終コーナーの懇親会です。日頃は、神緑会の運営にご協力いただき大変有り難うございます。先ほどの総会では提出審議事項について総て承認が得られました。有り難うございました。

この数年、神緑会の活性化にそれまで以上に努めて参りました。財政面での沈滞ムードを克服するため、ショック療法を試み、支出増以上に収入を増やしましたが、今年度、逆戻りとも言える状況が予測されています。引き続き、努力したいと思っています。又、明治期に神戸病院があった事は広く知られていますがその詳細はそれほど知られていません。住野先生のまとめられた40周年記念事業時の資料「明治期の神戸病院」を全員に配付させていただきました。この機会に下山手8丁目、その後雅城園ホテルのあった土地に「神戸大学医学部発祥の地の記念碑」を建てることや資料の収集などに努める予定です。関係者が高齢となっており、何人かは死亡されており、急ぐ必要があります。この多目的ホール前の廊下の陳列棚に貴重な資料を展示し、又、この会館入り口近くの記念碑は明治15～21年の神戸医学校の神田知二郎校長のもので、本日、表彰対象となっておられる先生方（教授・病院長就任、叙勲や行政職就任）には、本来、総会場でのご挨拶をお願いするべきですが大変に人数が多く、時間の関係でこの場でのご挨拶となりました。早めの時間に集中してお聞きできるような運営としたいので皆様よろしくお願ひします。

懇親会では、新任教授・病院長・並びに榮譽者の方々からご挨拶をいただきました。

懇親会では、新任教授・病院長・並びに榮譽者の方々からご挨拶をいただきました。



乾杯

新任教授等



榎本秀樹先生



廣瀬隆則先生



西山 隆先生



西村善博先生



堀 裕一先生



中村 誠先生



安田尚史先生



森田宏紀先生



大井静雄先生



田村孝雄先生

病院長等



小澤修一先生



横野浩一先生



足立秀治先生



長嶋達也先生



大西祥男先生

医師会長・荣誉者



大林良和先生



高橋桂一先生



尾崎 馨先生



浅野達蔵先生



閉会の挨拶をする  
中野副会長



懇親会風景

## 教授就任並びに栄誉者等一覧

### 【教授等就任】

神戸大学大学院医学研究科長・医学部長	片岡 徹 (特)
神戸大学大学院医学研究科 生理学・細胞生物学講座神経分化・再生分野 教授	榎本 秀樹 (特)
神戸大学大学院医学研究科 地域社会医学・健康科学講座地域連携病理学分野 特命教授	廣瀬 隆則 (特)
神戸大学大学院医学研究科 内科系講座先端緩和医療学分野 特命教授	木澤 義之 (特)
神戸大学大学院医学研究科 外科学講座肝胆膵外科学分野高度医療開発実用化部門 特命教授	藪内 光 (特)
神戸大学大学院医学研究科 外科系講座麻酔科学分野 教授	溝淵 知司 (特)
神戸大学医学部附属病院 救命救急科 特命教授	西山 隆 (特)
神戸大学医学部附属病院 呼吸器内科 特命教授	西村 善博 (58)
神戸大学大学院保健学研究科 病態解析学領域 分析医科学分野 教授	堀 裕一 (61)
神戸大学大学院医学研究科 外科系講座眼科学分野 教授	中村 誠 (01)
神戸大学大学院保健学研究科 病態解析学領域 臨床免疫学分野 教授	柱本 照 (01)
神戸大学大学院保健学研究科 地域保健学領域 健康科学分野 教授	安田 尚史 (03)
神戸大学大学院医学研究科 地域社会医学・健康科学講座 総合臨床教育・育成学分野 特命教授	森田 宏紀 (04)
神戸大学大学院医学研究科 内科系講座 iPS 細胞応用医学分野 特命教授	青井 貴之 (10)
聖トマス大学 学長	大井 静雄 (48)
島根大学医学部救急医学講座 教授	仁科 雅良 (56)
岩手医科大学 整形外科講座 教授	土井田 稔 (59)
大阪大学大学院医学系研究科 低侵襲循環器医療学講座 教授	倉谷 徹 (61)
富山大学大学院理工学研究部 生命・情報・システム学域ヒューマン・生命情報システム学系 教授	中村 真人 (61)
近畿大学医学部 内科学講座腫瘍内科部門 臨床教授	田村 孝雄 (63)

### 【病院長・医師会長等就任】

神戸赤十字病院 病院長	小澤 修一 (46)
北播磨総合医療センター 病院長	横野 浩一 (47)
神戸労災病院 病院長	大西 一男 (48)
兵庫県病院事業管理者	西村隆一郎 (48)
八鹿病院事業管理者	細川 裕平 (50)
兵庫県立柏原病院 病院長	秋田 穂束 (51)
兵庫県立がんセンター 病院長	足立 秀治 (52)
兵庫県立こども病院 病院長	長嶋 達也 (52)
兵庫県立姫路循環器病センター 病院長	向原 伸彦 (54)
兵庫県災害医療センター センター長	中山 伸一 (55)
淀川キリスト教病院 病院長	渡辺 直也 (55)
甲南加古川病院 病院長	田中 泰史 (57)
加古川西市民病院・加古川東市民病院 統括院長	大西 祥男 (58)
国立病院機構 神戸医療センター 病院長	島田 悦司 (58)
豊中市医師会長	上辻 浩夫 (42)
大阪市鶴見区医師会長	米田 嘉次 (52)
神戸市灘区医師会長	大林 良和 (55)
大阪市福島区医師会長	松下 正幸 (56)

### 【栄誉者】

文化功労者	中井 久夫 (名)
瑞宝中綬章	高橋 桂一 (35)
瑞宝小綬章	花田 雅憲 (33)
神奈川県 大磯町長	中崎 久雄 (43)
日本医師会最高優功賞	尾崎 馨 (37)
兵庫県健康功労賞	豊田 俊 (50)
兵庫県健康功労賞	淺野 達藏 (54)

# 健康と福祉に貢献する

医療機器・医用電子機器・衛生材料  
アンギオ用カテーテル・内視鏡製品  
整形外科用器械・病院設備全般

**YAYOI** 医科器械  
Corporation



株式会社 **やよい** 本社 / 姫路市古二階町3番地 〒670 0936 ☎079(224)5151(代) FAX 079(224)2024

姫路営業所 / 〒671 0252 ☎079(253)7800  
神戸営業所 / 〒652 0836 ☎078(652)5151  
阪神営業所 / 〒663 8132 ☎0798(46)1216  
大阪営業所 / 〒577 0063 ☎06(6782)7171

大阪南営業所 / 〒592 8342 ☎072(263)5756  
津営業所 / 〒514 0015 ☎059(223)1500  
アンギオ事業部 / 〒670 0936 ☎079(224)5154  
人工臓器事業部 / 〒577 0063 ☎06(6782)7308

特販営業部 / 〒671 0252 ☎079(251)0203  
物流部(神戸) / 〒654 0046 ☎078(733)8808  
物流部(SPD) / 〒671 0223 ☎079(253)6671  
物流部(センター) / 〒671 0223 ☎079(253)6644  
ホームページ <http://www.kk-yayoi.co.jp>

先生の良きパートナーでありたい—  
私たちはそのために頑張ります。

ジェネリック医薬品

ワクチン・衛生材料

医療機器・調剤機器

カード事業(医師協カード)

生命保険・損害保険

医業経営コンサルティング

リネン・医療用寝具リース

医療用食品・食器・厨房機器

## 神戸医師協同組合

本部 神戸市中央区神若通3丁目2番15号  
TEL 078(241)8995番 FAX 078(231)0910

ホームページアドレス <http://www.kobe-ishikyo.or.jp>

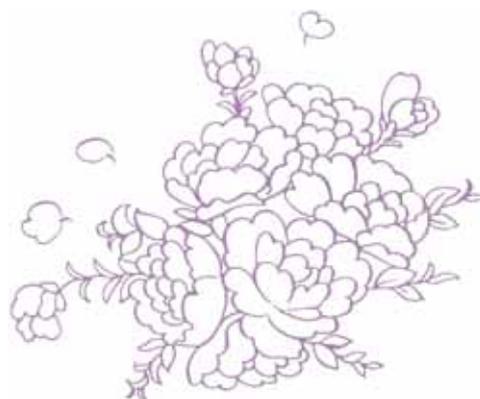
神戸事業所 TEL 078(241)8991番(代) FAX 078(242)8251  
尼崎事業所 TEL 06(6438)2561番(代) FAX 06(6438)2339  
明石事業所 TEL 078(936)3535番(代) FAX 078(936)3349  
姫路事業所 TEL 079(239)5725番(代) FAX 079(239)2513  
西神事業所 TEL 078(795)6612番(代) FAX 078(795)7084

## 平成25年物故会員

平成17年 6月5日	(45)	矢野 徹	5月7日	(専26)	西原 孝典
平成18年 1月13日	(32)	越後 一	5月9日	(27)	越川 裕正
平成23年12月26日	正イ(37)	原田 茂樹	5月24日	(H.16)	田邊 涉
平成24年 7月24日	名誉	岡本 道雄	5月26日	(27)	高垣 晃
9月22日	(39)	藤田 高良	5月	(28)	梅崎 尚
10月18日	(専24)	武岡 正	6月8日	(26)	岡本 政人
11月25日	(39)	森 暉雄	6月14日	(33)	松浦 役兒
12月7日	(36)	山本 好宏	6月15日	(27)	戸山 祥三
12月9日	(31)	赤井 正則	6月15日	(27)	中院 邦彦
12月29日	(34)	岩崎 正明	7月7日	(39)	梶原 康正
平成25年 1月11日	(30)	安達隆一郎	7月20日	(35)	高橋 晋介
1月14日	(30)	玉岡 卓	7月25日	(26)	祐源 浩二
1月30日	(28)	澤田 務	7月27日	(35)	藤井 忠男
1月30日	正イ(25)	田中 照男	8月27日	(33)	八尾 修三
3月4日	(専26)	高野 秀勝	9月7日	(39)	平海 光夫
3月6日	(40)	香山 英樹	9月13日	(37)	吉田 宗儀
3月8日	(27)	畑 一郎	9月26日	(50)	田中 賢治
3月12日	(36)	本間 道朗	10月3日	(53)	堺 史男
3月20日	(40)	山澤 埴宏	10月5日	(28)	平松 晋
4月10日	(38)	林 秀光	10月28日	正イ(24)	川北 博明
4月12日	(35)	二宮 英則	11月18日	(51)	高木 晴幸
4月24日	(40)	羽田 聖之			神緑会への通知の日
4月28日	(28)	吉村 清一			

( )内卒業年、正イ)は他大学卒

謹んでご冥福を祈り申し上げます。



## メモリアル

## 田邊 渉 君を偲んで

京都大学 iPS 細胞研究所 臨床応用部門 川口研究室 佐々木 勉



先ず、過日の突然の事故により急逝された田邊渉君のご冥福を謹んで心からお祈りいたします。同級生への弔文をこの歳で書くことになるとは夢にも思わず、辛いことこの上ありませんが、しかし大学院生活で一番身近にいた級友として彼の在りし日の思い出を紙面の許す限り書かせていただきます。

私が田邊渉君（以下、「なべちゃん」とさせていただきます。）の交通事故死の訃報を伝え聞いたのは、2013年5月24日午前7時過ぎでした。大学院生として臨床を離れて1年、まず鳴らなくなったような時間帯に僕の携帯が鳴りました。着信は研究室の教授からでした。こんな時間に、しかも教授から、普通でないことだけは容易に想像できました。

呆然として電話を切り、それからどんな順番で何と伝えたかはっきり覚えていません。ただ急いで自転車で研究所へ向かいました。自転車をこぐ感覚も、いつもと同じはずの道も、明らかにいつもと違いました。

10時過ぎ、教授室で事実であることが改めて全員に伝えられました。教授は泣き伏し、長い長い沈黙が続きました。そのあとみんなでなべちゃんのデスクに向かい、黙祷しました。ちょっと散らかった机、昨日までなべちゃんが座っていた椅子、いつもと変わらないそれらを見て一気にこみ上げました。涙が止まりませんでした。昨日もっと長めに話していたら時間の流れが変わったのかな、それかしゃべらなきゃよかったのかな、世話になりっぱなしで何も恩返ししていないのに。。。一度に色々な思いが駆け巡りました。

平成16年卒の私たちの学年は現在の臨床研修制度元年にあたり、当時は医師1年目から大学病院を離れて市中病院で研修する同級生が特に多く、なべちゃんとは初期研修の2年を兵庫県立尼崎病院で過ごしました。大学時代はクラブも違って連れ合うことが少なかった分、医師になってからのつきあいが新鮮で充実した2年間でした。そして彼が消

化器内科医、私は消化器外科医の道を選びました。何でも卒なくこなし、器用な彼でしたがその陰で人一倍勉強していたように思います。

その後それぞれのスペシャリティを極めるべく、忙しく有意義な臨床生活を別の病院で送り、彼が平成23年度の京都大学医学研究科・消化器内科教室へ、私が翌年の24年度に同肝胆膵・移植外科へ進学しました。ふたりとも教室から出向という形で、京都大学 iPS 細胞研究所、臨床応用部門・川口研究室へ所属させていただき、大学院生として再会することとなりました。

臨床の時と同じく努力家の彼の研究はマウスのES細胞から胃や食道を分化させるという、独創的で世界でも類を見ないものでした。同級生が1年上にいてくれることは心強く、今でもなべちゃんに聞いてほしい、と思うことがよくあります。臨床と同じく研究も器用にこなすイメージでしたが、研究所での英語のプレゼンテーション前には一人倉庫にこもって練習をしているのをよく見かけました。興味深いデータが出て教授にはしばらく隠し、嬉しそうに陰で教えてくれた表情がなべちゃんらしくて好きでした。同僚からの信頼も厚く、春からちょうど研究室室長として研究室全体のマネジメントも始めた矢先でもありました。

研究にはなかなか休みもないのですが、お互い父親として休日は早朝から研究室に出向き、「早いな～、今日は俺が一番やと思ったのに。どこ行くの？」と笑いながら話したものです。とても子煩悩な彼の実験ノートを、彼が亡くなったあと見て知ったのですが、息子さんの誕生日の日付に“Happy Birthday!”と記してありました。そんな、仕事にも家族にも一生懸命な彼の研究が突然予告なく止まってしまったことは大きな、大きな損失で、もちろんそれ以上に大きな大黒柱を亡くしたご家族のことを思うと無念でなりません。

その日は実験をする気に全くなれませんでした。居ても立ってもいられず、研究所から川端通りを挟んですぐの鴨川の河原に出ました。ベンチに座って、ひたすら同級生にメールをしました。みんなか

らメールや電話がすぐに返ってきました。何かできることがあればと連絡をくれたり、お通夜、告別式にかけつけてくれた同級生のみんなありがとう。忘れられません。ベンチに座ったまま研究所に戻れずにいました。

昼前になって、2人の先輩から着信がありました。

「事故現場に行ってみようか」

先輩と3人、北に自転車を走らせました。雲一つない青空が広がっていました。伝え聞いた現場の近くの消防署で事故が事実であったこと、その場所を確認し、近くのスーパーでそれぞれにお花を買って、お供えしました。なべちゃんがどんな思いでここを渡ったのか、どれだけ痛かったか。速度超過で突っ込み、一瞬にして彼の前途を奪った加害者にやり場のない憤りを覚えました。

なべちゃんが家族と下見までして主催してくれた、川口研究室の2012年紅葉狩りの写真は今でもよく見ます。川口教授と一緒に写っている、教授もお気に入りの写真を掲載します。



川口教授と共に

知り合って15年、短すぎたけど、もっと話したいことがあったけど、楽しかったね。ありがとう。ゆっくり休んで、また天国でも忙しく走り出してください。そしてご家族を変わず見守ってあげてください。ご家族の悲しみの向こうにひとつでも多くの幸せが訪れますようお祈りします。みんな悲しみに暮れ、とてつもない虚無感に襲われ、それでも前を向いてまた歩み始めています。本当に本当に、なべちゃん、ありがとう。

## メモリアル

### 田邊 涉 先生

京都大学 iPS 細胞研究所長 山中 伸 弥

昨年5月24日の朝、iPS細胞研究所の川口義弥教授からの電話で、先生の突然のご逝去を知りました。あまりの衝撃に声を失いました。川口先生も電話口で号泣されていました。

その僅か2か月ほど前に開催された研究所の発表会において、先生の素晴らしい成果をお聞きし、研究の展開に大きな期待を抱いたばかりでした。iPS細胞から臍島細胞への分化誘導という極めて重要で国際的に競争の激しい分野において、先生はまず腸管組織を作るという他に類を見ない画期的な成果を出されていました。懸命に努力されていたお姿が目につかび、将来が囁望された優秀で得難い研究仲間を失った衝撃の大きさに堪え難い思いが続いています。

先生は、iPS細胞研究所に在籍する、私にとって数少ない神戸大学の後輩の一人であり、先生が活躍されている姿を見ることは格段の喜びでありました。研究者として、まさにこれから大きく飛躍しようとしていた時に、突然の事故で永眠された先生の無念を思うと痛恨の念に堪えません。

残されたお子様、奥様、ご両親をはじめとするご遺族のご悲嘆と今後のご苦勞を推察するだけに、胸の詰まる思いがいたします。及ばずながら、我々一同、できるだけお力になりたいと念じております。

先生が志半ばで果たしえなかったお仕事、iPS細胞研究とその医療への応用を目指された先生の思いは、我々が確実に引き継ぎます。

田邊先生 どうか安らかに眠りください。

## メモリアル

## 田邊君 安らかにお眠り下さい

京都大学消化器内科 千葉

勉（昭和49年卒）

私達の愛すべき仲間、田邊 渉君は、まさに最先端の研究成果を出そうとしていたその矢先に、突然私達のもとから去って行ってしまいました。昨年の5月24日のことです。夜おそくに研究室から帰宅して、そのあと奥さんのために、近くのコンビニに「甘いもの」を買いに行った時に交通事故にあったのです。あまりにも急な出来事だったので、皆未だに信じられない状況で、今でも、あの人懐っこい顔をしながら、iPS研究所から「ひょこ」と医局に顔を出しそうな気がしてなりません。

田邊君は、徳島の吉野川の流域の「田舎」で、のんびりと育ったと聞いています。以前野球で有名だった「池田高校」の近く、と彼が言っていたのを覚えています。小学校だったか中学校だったか、何せ一学年の生徒が十数人という学校で、勉強はいつも「ダントツ」だったそうです。彼は高校まで徳島で過ごした後、わが神戸大学に入学、平成16年に卒業しました。その後彼は、県立尼崎病院、倉敷中央病院、そして大津赤十字病院、と多くの病院で内科研修をしたあと、卒後7年を経過した平成23年4月に、私達の京都大学消化器内科の大学院に入学してきました。大学院入試を受ける前に私のところへ来て、「病気を基礎から理解できるような勉強、仕事をしたい」と元気に言っていたことを、良く覚えています。会って即座に、田舎の素朴さと、頑張る勉強したいという情熱、を同時に感じ取ることができました。

私達の教室では毎年、特に優秀で、かつ頑張りそうな大学院生を1、2名ほど、最先端の研究をおこなっている基礎の教室に送るようにしていますが、私はすぐに田邊君に目をつけて、iPS研究所の山中教授、川口教授（外科の出身で、消化器臓器や癌の幹細胞研究の第一人者）のもとに行かないか、と話しました。そうすると、「是非行かせて下さい」と、その場ですぐに返事が返って来たのを、これもよく覚えています。田邊君は、大学院1年目は、内視鏡や病棟業務をしていましたが、7年間で3つも異なる病院を経験しただけあって、「8年目にしては、とても臨床経験が抱負だな」という印象を強く受けました。また臨床医としての心構えも、

相当なものでした。研修医や学生さんに対しての指導も熱心で、チャートの時に学生さんの横で一生懸命説明してくれていたのが目に浮かびます。しかしながら2年生になって臨床のdutyから開放されると、あっという間にiPS研究所に入り浸りになってしまって、医局には、時々しか顔を見せなくなりました。しかしたまに医局に帰って来た時に、「どうや!？」と声をかけると、今やっている仕事について、いつも本当に楽しそうに、非常に詳しく話してくれました。彼の話は、山中研での最先端の研究の話でしたので、私は彼の話聞くのが大変楽しみで、病院の廊下やエレベータの前で、よく話し込んだものでした。

彼の仕事は、iPS細胞やES細胞から消化器の臓器をつくる、というものでしたが、色々と手がけるうちに、特に胃をつくることにのめり込んで行きました。胃には胃酸を分泌する壁細胞、ペプシノーゲンを分泌する主細胞、ヒスタミンを出すECL細胞、さらに粘液を分泌する粘液細胞などがあるのですが、様々なことを学んで、様々な工夫をしながら、そうした細胞をつくる仕事を本当に楽しそうにやっていました。彼の仕事は、山中研でも初めてのプロジェクトであり、彼が最初からやり始めたものですが、すでにかなり完成してきていた時だけに、大変残念です。今後、彼のシステムをさらに進展させて、「胃炎が生じることによって、腸上皮化生や腺腫、胃癌が発症する機序」についても解明していけると確信しはじめた矢先でした。

京都では、彼がいなくなったことを皆が悲しんでいます。それは彼の愛すべき人となりとともに、彼がすばらしい仕事をしてきたからだと思います。超多忙の山中先生ご自身が、お通夜にも、お葬式にも参列して下さったのも、彼への敬意と、残念さの所以だと思います。田邊君のすばらしい研究の成果は、「彼の遺稿として、必ず完成させて世の中に出す」と山中先生はじめiPS研究所の同僚たちが約束してくれています。

田邊君、有能で、人間味あふれ、前途洋々だった君が突然いなくなるなんて、本当に未だに信じられず、残念ですが、どうぞ安らかに眠って下さい。

# 医学研究科・医学部の現況と課題

医学研究科長・医学部長 片岡 徹



本医学研究科・医学部（以下、本研究科）にとって、本年は、昭和19年に県立医学専門学校として創立されてから70周年、昭和39年に神戸大学への国立移管が開始されてから50周年、平成16年に国立大学が法人化されてから10周年を迎える記念すべき年に当たります。また、明治2年に神戸病院が開院され、本研究科の前身である医学伝習所が設けられてから145周年となります。本研究科としては、今年から5年後にその150周年及び創立75周年を兼ねて記念事業を催すことを想定しております。

現在の本研究科執行部の構成と役割分担を図1に示します。医学研究科長・医学部長就任後8ヶ月余りが経過しましたが、国立大学、特に医学研究科・医学部が現在未曾有の難局を迎えているという認識は高まるばかりです。国立大学、特に医学研究科・医学部は、これまで学部・大学院教育を通じた人材育成、研究推進、社会貢献や国際貢献を通じて我が国の発展に多大の実績を残してきましたが、近年のグローバル化、少子高齢化、新興国の台頭などによる競争激化等の我が国の社会経済状況の変化の中で、グローバル人材の育成やイノベーション機能の強化に向けて、大規模な改革を実行する必要性に迫られています。また、国家財政の逼迫を受け、限られた資源を選ばれた一部の大学に重点配分するという「選択と集中」の強い圧力にさらされてい

研究科長・医学部長		執行部役割分担	
研究科長・医学部長	片岡 徹	的崎 尚	企画、施設・設備
副研究科長・副医学部長	的崎 尚	飯島一誠	博士課程教育・入試
副研究科長・副医学部長	飯島一誠	南 康博	国際交流、産学連携
副研究科長・副医学部長	南 康博	古瀬幹夫	修士課程教育・入試、制度
医学専攻長	飯島一誠	中村俊一	学士課程教育・入試
BMS専攻長	古瀬幹夫	横崎 宏	財務
医学科長	中村俊一	丹生健一	評価、再任審査
医学研究科評議員	具 英成		
研究科長補佐	横崎 宏		
研究科長補佐	丹生健一		
内科学講座チエアマン	平田健一		
外科学講座チエアマン	大北 裕		
附属動物実験施設長	南 康博		
附属感染症センター長	森 康子		
附属図書館分館長	寺島俊雄		

図1 医学研究科・医学部医学科新執行部 (H25.5.16 ~ H27.3.31)

ます。以下に、国立大学及び医学研究科・医学部の現況と課題を、一般的な事柄と神戸大学及び本研究科固有の事柄に分けて説明します。法人化後、本研究科の状況は、基本的に神戸大学全体の状況の直撃を受けますが、本研究科独自に頑張っている部分もあることから、記述内容が多少錯綜いたしますがご容赦願います。

## 1. 国立大学の現況と課題（一般論）

平成の時代に入るまで、国立大学の予算は文部科学省（文部省）による一定の積算基準の下に決定され、大学の規模等による多寡はあるにせよ、貧しいながらも基本的に横並びで必要額が保証された状況にありました。しかし、平成に入り、国立大学改革の波が押し寄せました(図2)。平成3年度より、部局の教育研究組織を学部から大学院に移す「大学院重点化」による格差付けが始まり、平成12年度までは部局予算の増額（25%増）を伴っていました。しかし、その後、特に法人化後は、大学院部局化は大学の判断に委ねられることになったことから、大学・学部のステータスとしての意味はなくなりました。

これに代わる格差付けは、平成13年度の小泉内閣

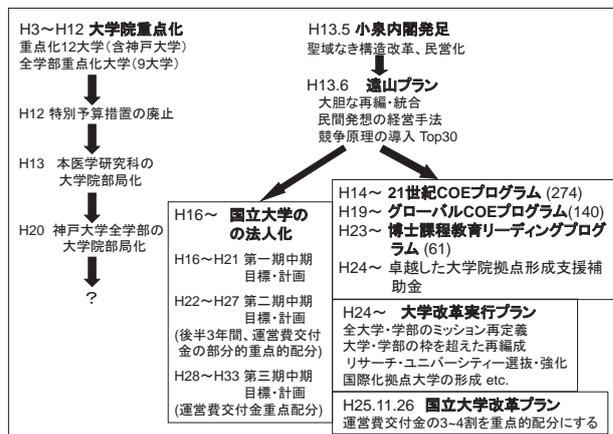


図2 平成以降の国立大学改革の大筋

の聖域なき構造改革に始まりました。同じ年に文科省は、「遠山プラン」を発表し、国立大学に大胆な再編・統合と競争原理の導入を行い、各学問分野でトップ30大学（公私立大学含む）を選抜し重点的に支援する方針を打ち出しました。これに沿って、平成14年度から、ほぼ2年間で10学問分野にてそれぞれトップ約30大学を教育研究拠点として選抜し、計274拠点到5年間補助金を交付する「21世紀COEプログラム」が実施されました。COEは、Center of Excellenceの略です。さらに、同プログラムの終了後、その後継として、平成19年度より、同じくほぼ2年間で10学問分野にてそれぞれ13~14件、計140教育研究拠点を選抜し、5年間補助金を交付する「グローバルCOEプログラム」が実施されました。件数の半減に伴い、一拠点当たりの補助金額は約2倍になりました。研究の要素が強かった21世紀COEプログラムに比べ、グローバルCOEプログラムではグローバルに活躍できる質の高い研究者の養成のための大学院博士課程教育の要素が強くなりました。平成23、24年度にグローバルCOEプログラムが終了し、平成24、25年度は「卓越した大学院拠点形成支援補助金」に引き継がれました。この補助金では、応募して審査を受けるのではなく、全国の大学院の各専攻の大型研究費獲得実績や論文発表実績などの客観的データに基づき文科省が選抜するという新しい方式が導入されました。今後、このような方式が一般的になると考えられます。一方、平成23年度から、COEプログラムとは目的が異なり、産学官（特に企業）で活躍できるグローバルリーダーの養成を目指す「博士課程教育リーディングプログラム」が始まり、平成23~25年度の3年間で計61拠点が選抜されました。このプログラムは、オールラウンド型、複合領域型、オンリーワン型に分けて募集され、補助金額は平均してグローバルCOEプログラムの約2倍となり、7年間継続されます。また、平成21年度に「グローバル30（国際化拠点整備事業）」が始まり、国際化拠点大学として13大学が採択され{当初、翌年度にあと17大学（計30大学）採択の予定が、民主党政権の事業仕分けにより募集中止となりました}、優秀な外国人留学生の獲得と教育のために5年間多額の補助金が交付されています。

もう一つの民営化及び競争原理の導入の流れで、平成16年度に国立大学すべてが法人化され、国立大

学法人となりました（図2）。各大学は、6年間を一単位とする中期目標・中期計画を立てて文科大臣の承認を受け、中期目標・中期計画に基づいて運営され、その達成状況について評価（法人評価）を受けます。実質的には、教員（法人化後は、教官ではなくりました）の人件費やその他の物件費などの基盤的経費を国が運営費交付金として交付する点は変わりません。しかし、法人化以前は、国立大学各部署に配分する予算額は教官数や他の要素に基づき一定基準にて金額を積算して決まっていたのですが、法人化後は平成14年度予算実績に基づいて各大学に一括で運営費交付金を交付し、大学が各部署に配分することとなりました。この時点で、大学とその各部署は運営費交付金については完全に運命共同体となったわけです。第一期中期目標・中期計画が平成21年度に終わり、法人評価の結果により運営費交付金が傾斜配分されましたが、その対象額は全体（1兆円を越えます）の1%程度にとどまり、大学間の差はつきませんでした。しかし、運営費交付金全体では、国立大学の自活を促すという目的で、平成17年度より、その大部分を占める人件費分が年間1%ずつ削減されることになり、平成22年度からの第二期中期目標・中期計画の始まり以降は、効率化係数ということで運営費交付金が年1.3~1.4%ずつ削減されています。削減額の一部は、COEプログラム等の教育や研究の大型補助金等として、重点配分に回っています。これまでも、運営費交付金の枠の中に、プロジェクト分や基盤的設備等整備分という特別経費が600~800億円あり、各大学の教育研究プロジェクトや基盤的設備に重点配分されてきたのですが、それ以外は、運営費交付金の額は規模に伴う要素以外はほぼ各大学横並びでした。しかし、次に述べるよう、この原則が平成25年度以降抜本的に崩されようとしています。

平成24年6月に、文科省は「大学改革実行プラン」を発表しました（図3）。これは、国として各国立大学の改革の方向性を、全大学、全学部の「ミッションの再定義」により提示し、改革促進のための様々なシステム改革を行う重点的支援策を導入するものです。ミッション再定義については、すでに、人材育成目的が明確な教員養成、医学及び工学の全学部（研究科）のミッションの再定義と公表が昨年中に終了し、現在他の全学部のミッションの再定義が進行中です。これは、基本的に、各大学・学

- 国立大学法人全大学・学部のミッションの再定義 (H24, H25)  
教員養成、医学及び工学を先行して実施。
- 国立大学改革強化促進事業 (H24～)  
「ミッション再定義」を踏まえた大学・学部の枠を超えた教育研究組織再編  
H24に14事業を選定、H25, H26も継続。
- 機能強化推進のための運営費交付金の重点配分 (H26～)  
18大学に配分：世界水準の教育研究活動の飛躍的充実を図る大学 (12大学)  
各分野における抜本的機能強化を図る大学 (6大学)
- 研究大学強化促進事業 (H25～)  
22大学を選抜 (4億円/年 4大学、3億円/年 12大学、2億円/年 6大学)  
支援期間10年間 (5年で入替え)
- スーパーグローバル大学事業 (H26～)  
30大学を選定予定 (トップ型 10大学、グローバル化牽引型 20大学)

図3 「大学改革実行プラン」の実施に係る代表的施策

部の機能分化（世界最高レベルの拠点、全国的な拠点、地域活性化の拠点への機能分化、大学の重点領域の明確化など）を目指すものです。また、平成25年度に、研究業績等の数値データと構想ヒアリングに基づいてリサーチ・ユニバーシティを選抜して10年間重点的に支援する「研究大学強化促進事業」が始まり、22大学（公私立大学含む）が採択されました。ただ、三段階の格付けがなされました（図3）。また、平成24年度に、国立大学間の大規模な連携や組織改革を重点的に支援する「国立大学改革強化促進事業」が始まって14国立大学が採択され、年当たり計約140億円が配分されています。また、国際化拠点大学の選抜では、グローバル30を継ぐ「スーパーグローバル大学事業」が平成26年度から開始予定で、世界をリードするトップ型10大学とグローバル化牽引型20大学の計30大学（公私立大学含む）が選抜され、10年間大型補助金の交付を受ける予定です。これらの事業は、すべて補助金です。

平成25年11月26日に、文科省は、さらに衝撃的な「国立大学改革プラン」を発表しました。これは、大学改革実行プランを発展させ、各国立大学が、その強み・特色の重点化、グローバル化、イノベーション創出、人材養成機能の強化という機能強化を自ら実現するための方策（教育研究組織やプログラム、人事・給与システム、ガバナンス等の改革）を実施することを奨励（実質上強制）するものです。注目すべきは、第二期中期目標・中期計画の後半3年間（平成25～27年度）を改革加速期間として、この期間中に各大学の改革の取組への配分及びその影響を受ける運営費交付金の額を3～4割にしていることです。これを額面通り取ると、この配分を受けられない大学は、平成27年度末までに運営費交付金の額が6～7割となり、第三期中期目

標・中期計画期間ではそれが恒常化されるということです。運営費交付金の大部分は、定員内教員の人件費ですから、大幅な教員数削減が必至です（削減に実現性があるのか疑問ですが）。すでに、平成26年度予算では、大学の機能強化の改革を行った国立大学18校に運営費交付金が重点配分されることが決まっています（図3）。あと、チャンスは平成27年度しか残されていません。

## 2. 神戸大学及び本研究科の現況と課題

平成12年度までの大学院重点化の期間内に、神戸大学では、経営、経済、法学の3学部が重点化されました。本医学部は、一年遅れて平成13年度に予算増額を伴わない大学院部局化（大学院講座化）されましたが、医学部では旧七帝国大学と東京医科歯科大学に次ぎ、旧六医科大学の一部と同時期であったことから、当時大変喜んだものです。しかし、前記の如く、大学院重点化・部局化にステータスとしての意味はなくなりました。ちなみに、神戸大学は平成20年度に全学部を大学院部局化しました。

国立大学の再編・統合では、神戸大学は平成15年度に神戸商船大学を統合し海事科学部ができました。21世紀COEプログラムは、神戸大学では、経営、経済、法学研究科がそれぞれ社会科学分野で獲得するなど、それぞれ28、23件を獲得した東大、京大には及びませんが、8件の九大に迫る7件を獲得し、かなり善戦しました。本医学研究科も、西塚泰美教授に淵源を發する細胞内シグナル伝達研究に関する世界的業績をもとに、バイオシグナル研究センター（当時、センター教員は大部分医学研究科に所属）を中核とし医学研究科を始めとした他研究科教員が加わって生命科学分野で、及び医学研究科を中核として医学系分野で、計2件を獲得しました。グローバルCOEプログラムでは、神戸大学では、経営、経済、法学研究科が軒並み落選する中、医学研究科は、ただ一つ健闘して生命科学分野で「統合的膜生物学拠点」、医学系分野で「次世代シグナル伝達医学拠点」の2件を獲得し、年約5～6億円が研究科に入り、若手研究者の独立支援（テニユアトラック制の実施）、大学院教育の充実や国際交流活動の推進、研究機器の整備などを行うとともに、間接経費を用いて施設の改修など様々な戦略的事業を実施することができました。さらに、2つ

のグローバル COE プログラム終了後も、その教育研究を引き継ぐ「膜生物学・医学教育研究センター」を設置し、それを中心に引き続き平成25年度に「卓越した大学院拠点形成支援補助金」を獲得し、大学院学生の支援を継続しています。一方、「博士課程教育リーディングプログラム」では、結局神戸大学は1件も獲得できませんでした。本研究科も、工学研究科の先端膜工学センターと組んで、オンライン型に「統合的膜科学」の拠点を申請しましたが、採択されませんでした。

法人化前後に、従来医学研究科の教官は理系博士課程担当の教官当たり積算校費額を支給されていたものが、一律理系修士課程担当のそれに減額されたため、運営費交付金額は大きく減少しました。このため、以前は300万円位あった各講座に配分する講座費が著しく減少しました。法人化の際に、大学本部の機能充実と教員の戦略的配置の名目で、各部局の教員と事務系職員の定員の5%を本部に供出し、学長裁量枠の教員ポストが設けられました。このポストは、グローバル COE 採択プログラムや大型研究費獲得教員に配分され、事業推進に役立ちました。しかし、昨年度までに、このポストの大部分は、運営費交付金の年1~1.4%の一律削減に伴う教員定員減の埋め合わせに費消されてしまいました。本年度になって、リサーチ・ユニバーシティーとしての生き残りを目指す神戸大学では、ついに福田学長が腰を上げて「アクションプラン2013」を提案され、各部局から3.4%の教員定員を供出させ、戦略的配分及び運営費交付金削減による教員減に充当することになりました。医学研究科から5名、附属病院から3名の教員ポストの供出は、本研究科の今後にとって非常に痛手になります。現在の本研究科の財務状況は、運営費交付金だけでは、経常経費の主要部分を占める光熱水道費を十分に支弁できない有様です。幸い、国の方針で、科研費等の競争的研究費に30%の間接経費（オーバーヘッド）が付くようになり（平成21年度までは、グローバル COE プログラムなど教育関係競争的資金にも付いていたのですが、事業仕分けで廃止されました）、その半分が研究科に入るため、それから毎年数千万円を補填することにより賄われています。近年、教員の努力により、本研究科の文科省や厚労省関係の競争的資金の獲得は比較的順調で、毎年1.8億円余りの間接経費が入りますので対応は可能ですが、将

- 神戸大学の理念に基づき、世界に開かれた国際都市神戸に立地する大学として、旺盛な探求心と創造力を有する科学者としての視点をもち、グローバルな視点で活躍できる医師及び医学研究者の養成を積極的に推進する。特に、学部入学段階から卒業・大学院までの一貫した取組により基礎医学研究者の育成を行う。
- 生体膜と細胞内情報伝達機能に関する研究を始めとする、基礎医学、臨床医学の各領域における研究の実績を活かし、先端的で特色ある研究を推進し、新たな医療技術の開発や医療水準の向上を目指すとともに、次代を担う研究者を養成する。
- インドネシアにおける新興・再興感染症の国際共同研究の拠点を基盤にして、ASEAN諸国等と連携・協議し、医学に関する地球規模課題の解決を通して国際貢献に資する。
- 兵庫県と連携し、県内の地域医療を担う医師等、医療人材の確保及びキャリア形成を一体的に支援し、兵庫県の地域医療再生に貢献する。
- 特定機能病院、地域がん診療連携拠点病院、地域災害拠点病院、地域周産期母子医療センター等としての取組を通じて、兵庫県における地域医療の中核的役割を担うとともに、先進医療、特に低侵襲医療の研究・開発を推進する。

図4 ミッションの再定義（神戸大学医学分野）

来的な保証はありません。

本研究科の「ミッションの再定義」の結果は、図4の通りになりました。研究者（特に基礎医学研究者）の育成や生体膜と細胞内情報伝達機構の研究に基づく革新的医薬品・医療機器の開発及びインドネシアにおける新興・再興感染症拠点を基盤にしたASEAN諸国との連携による国際貢献が表に出たことで少し安堵していますが、機能分化の世界最高レベルの拠点と全国的な拠点の境目辺りに位置するのはと推測しています。

本年度の「研究大学強化促進事業」において、神戸大学は幸いにも採択されました。ただ、三段階の格付けのうち、下のランクの6大学（他に、北海道大、慶応大、熊本大、岡山大等）に属しており、5年目の中間評価による入れ替えに備え、研究機能を強化する必要があります。この採択に当たっては、本研究科のグローバル COE プログラムを含む競争的資金獲得実績や研究業績・知財実績が大きく貢献しました。神戸大学にとって重大な問題は、「国立大学改革強化促進事業」や平成26年度の運営費交付金の大学の機能強化の重点配分先に選ばれていないことです。神戸大学は、文科省から「改革を行っていない大学」と見なされているようで、今後3~4割となる運営費交付金の重点配分枠の獲得に向けて、現在学長を始め大学執行部が抜本的な改革構想を練っておられるところです。ただ、付け焼刃的対応では全く評価されません。平成26年度募集となる「スーパーグローバル大学事業」への採択は、「国際性に富む研究大学」を目指す神戸大学にとっては、その命運をかけた重要な事項であり、現在申請に向けて全学的に検討が進んでいますが、グローバル30採択大学や国際化に力を入れる私立

大学があり、あまり楽観はできません。

### 3. 医学研究科・医学部固有の現況と課題

いわゆる2023年問題（2010年に米国のECFMGが2023年以降、米国医師国家試験受験資格をアメリカ医科大学協会又は世界医学教育連盟（WFME）の基準により認証を受けた医学部卒業生に限定するとの方針を提示した問題）が契機となり、この問題への対応に留まらず、日本の医学教育を国際標準に適合させるための医学教育改革が急加速しました。昨年に、公式な認証評価団体である日本医学教育認証評議会（JACME）が設立され、WFMEの基準に基づく医学教育分野別認証評価基準日本版が作成されました。評価基準に対応するには、診療参加型臨床実習時間数の大幅増、行動科学等の必要科目の導入やアウトカムベースの評価体制の確立など教育プログラムの大幅な改革が必要で、現在、カリキュラム検討ワーキンググループを中心に新カリキュラムを策定中です。すでに、平成24年に東京女子医科大学がWFME基準による国際外部評価を受け、昨年末には新潟大学と東京医科歯科大学がJACMEによる認証評価を受審したところで、他大学の情勢を見極めながら、早めに受審したいと考えています。

本研究科では、最先端の医学・生命科学研究を行って研究大学として生き残るだけでなく、同等の比重をもって、優秀な医師の養成を通じて兵庫県における地域医療に貢献することを目指しています。本年度末に、県養成医の学生（医学部在学中に兵庫県からの奨学金を受給し、卒業後9年間県内での地域医療への従事義務を負う学生）1名が初めて卒業を迎えます。医師の絶対数不足及び地域・診療科偏在の対策として、国は医学部医学科の入学定員増を実施し、入学者数は平成19年度の7,625名から平成25年度には9,041名となっています。本医学科では、入学定員が平成20年までの100名から平成26年

度には117名となります。定員増の大部分は地域枠学生（＝県養成医）で平成25年度から10名になりました。県養成医は6年後には60名が医学科に在籍し、義務年限の養成医数も激増することから、その卒前卒後の教育指導体制の構築が喫緊の課題となっています。このため、兵庫県の支援で、有馬街道を隔てた旧埋蔵文化財研究所跡地に地上3階、地下1階の「医学部附属地域医療活性化センター」が、この2月末に竣工予定であり、県の「地域医療支援センター」もこの建物に入って、本研究科と兵庫県の密接な連携の下、本医学科卒業生に限定しない県養成医の教育やコメディカルの育成及び病理診断を含む各種医療技術の教育を実施する予定です。

また、基礎医学研究者の養成に積極的に取り組んでおり、平成24年度には、文科省の「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成」プログラムに採択され、基礎医学研究医育成コースを実施しています。今までの実績に基づいて、平成26年度から基礎医学研究者の育成のための「研究医枠」の入学定員増（2名）が認可されたことが最近の大きなトピックです。

以上が、少し広い視野から見た「医学研究科・医学部の現状と展望」になります。とにかく、非常に厳しい状況のなか、神戸大学及び本研究科の伝統や実績に基づいて、独自の優れた教育・研究戦略を策定し、単独では難しければ適切な相手と連携しながら、組織として国からの競争的教育・研究資金を獲得していくことが必要です。他に、研究費の面では、日本版NIH構想等の重要な課題がありますが、誌面の都合で割愛いたします。

これまで、神緑会の皆様からは、多大のご援助を賜り、心から感謝いたしております。今後も引き続き暖かいご支援とともに厳しいご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。皆様にとって、本年が良き年になりますよう、心からお祈りいたします。

## 基礎臨床融合と研究医育成について

医学科長・生化学分野 中村俊一

我国に於いてはこれまで医師免許を有する医学研究者（MD 研究者）が生命科学の発展に中心的な役割を果たして来た。特に MD 研究者は医学科での教育課程で生命科学を分子・細胞・個体・社会集団の視点から系統的に学ぶ経験を経ており、医学教育のみならず生命科学に果たす MD 研究者の重要性は今後とも変わることは無い。しかしながら、昨今の初期臨床研修制度の義務化 / 後期臨床研修・学会認定医・専門医のルール化等を始めとする複数要因により全国的に MD 大学院生や MD 研究者の激減を来し、今後の医学教育や生命科学の維持に大きな不安材料となっており、これらの状況を打開するための迅速な対応が各大学で要求されている。

神戸大学医学部医学科ではこれまでに高学年に於ける基礎配属実習を全国に先駆けて導入するなど、医学研究重視の教育を学部時代から実施してきた。その結果、本学の卒業生から細胞内情報伝達や iPS 細胞の分野で世界をリードする研究者が育ち、学内のみならず学外にも多くの教授を輩出してきた。しかしながら昨今の深刻な MD 研究者減少の波は神戸大学をも直撃し、特に基礎系分野における MD 教員や MD 大学院生の数は激減している。このままでは臨床系分野での研究停滞にも直結し、高度先進医療を担う医師・生命科学領域で活躍する優れた研究者育成を標榜してきた本医学科の目指す将来像も瓦解の危機に瀕している。これらの危機的状況を打開するためには抜本的な制度改革を伴った研究教育システムの導入が必要であり、その方向性に沿った対策が検討された。その結果、神戸大学医学科では平成24年度に「基礎・臨床融合による基礎医学研究医の養成」を策定・開始し、次に平成25年度より MD-PhD プログラムを導入し、基礎医学研究を重視したプログラムを開始した。更に平成26年度からは研究医枠として2名の医学科の入学定員増が文部科学省に認可され、医学科全体として本腰を入れ医学研究教育の充実に取り組む覚

悟である。本稿ではこれら2つのプログラムについてその概略を説明し、基礎医学研究医育成に焦点を合わせた医学部・医学研究科の取り組みをご理解いただき、神緑会の先生方から御指導・後助言を賜りたい。

### 「基礎・臨床融合による基礎医学研究医の養成」

本事業は大学改革推進事業の一環として平成24年に文部科学省で採択されたもので、最大の特徴は医学部6年間の一貫教育「基礎医学研究医育成コース」を選択科目として設け、これを履修することで研究に興味を有する学生の研究活動を支援し、学部学生の時は基礎と臨床を区別せず、リサーチマインドを涵養することにある。卒業後「卒後臨床研修と基礎医学研究を一体化した大学院ダブルコース」、更に大学院卒業後に基礎分野での研究活動と臨床活動を合わせ行う「学術研究員」や「基礎臨床融合特命助教」として採用する。本事業を通して研究志向を有する医学生が将来臨床医になる可能性を温存しつつ研究活動が開始でき、MD 研究者としての母集団を増やすことで、将来的に基礎医学研究医の持続的養成を期待する。

### 「MD-PhD プログラム」

本プログラムは平成25年度より開始されたもので、リサーチマインドを有した学生が4年次を修了した段階で一旦医学科を休学し、医科学専攻博士課程へ入学する。3年以上の教育・研究指導を経て博士の学位を取得した後、医学科の5年に復学し、卒業後医師免許取得の道へ戻る。このプログラムは前出の「基礎・臨床融合による基礎医学研究医の養成」に比べ、基礎医学研究者に対する興味強い学生を対象にしている。

平成26年度から認可された研究医枠の学生2名に関しては入試段階では選抜を行わないが、上記の「基礎医学研究医育成コース」での研究教育内容

を充実させることによりリサーチマインドを涵養し、その後「MD-PhD プログラム」に進む学生や基礎系の大学院生の数を確保することで、短期的に研究医枠を確保することの意味付けが可能である。しかしながら、長期的にはこれまでのように国際的に活躍できる生命科学研究者を輩出できるか否かでその新価が問われることになる。そのためには

研究志向の学生にインセンティブを付与する目的で、奨学金制度の充実等は無用必要ではあるが、最大のインセンティブはやはり指導者たる我々が学生に対して率先して範を示し、国際的な活躍を行うことであろう。恩師西塚泰美先生に今更ながら頭の下がる思いがする。

## 耳より情報

### 医療機関が抱える労使トラブルの傾向

#### 居残りはサービス残業

監督署からの是正勧告の多いサービス残業や長時間労働に対する賃金不払事案は、職場で働く労働者からの申告によるものがほとんどです。これは、職員の勤務先に対する帰属意識の薄れや権利意識の高まり、さらにインターネット等で簡単に情報を入手できるようになったことが要因となっていると思われます。

医療機関の現場では、不規則な勤務に加え、多忙な職場のため長時間労働となりがちです。患者様への対応や引継ぎ等により、終業時刻が来てもすぐには仕事から離れることができないことも多く、医師の場合は、自身の研究等による自己研鑽と業務との時間の区別が明確でないこともあり、労働時間についてグレーな取り扱いが多いと思われます。

しかしながら、労基法の規制する「労働時間」は、厳密です。「労働時間」とは、休憩時間を除いた時間であり、現に労働させる時間です。この「労働時間」には、現実に作業に従事している時間のみならず、手待時間や使用者の指揮監督のもとにある状態（ミーティングや作業衣への着用等）が含まれます。使用者の知らない間に行われていた居残り業務であってもこれを放任していれば、使用者からの黙示の指揮命令があったと解され、労働時間になります。

近年は、精神疾患の発症の原因が業務にあるとして、労災申請を行う労働者が増加傾向にありますが、月80時間以上の長時間労働があると労災認定される可能性が高くなります。

これまで職員からの苦情が無いからと言って、グレーな労働時間管理を行っている、突然、監督署から是正勧告を受ける結果となります。労働時間を適正に把握し、変形労働時間を採用したり、勤務シフトを見直すことでサービス残業が解決することもあります。また、自主的だとしても終業時刻以降は、必要がなければ職場から退出させるようにしたり、必要がある場合は、時間外申請を事前に行わせ、また事後にも確認するという方法をとるのも黙示の指揮命令があったと解されないために有効です。

神緑会顧問の社会保険労務士百合岡事務所（TEL078 - 577 - 6722）が対応策に応じます。ご相談のある場合は、ご遠慮なくどうぞ。

社会保険労務士百合岡事務所

## 明治期の神戸病院の跡地を尋ねて

神戸大学大学院医学研究科 神経発生学分野 寺島 俊雄（特別会員）・薛 富義（技術専門員）

神戸大学医学部の母体となった神戸病院（後の公立さらに県立神戸病院）は、明治2年に創設された。外国人医師を招聘し、西洋医学による施術を行うことを目的とした神戸病院は、当然のことながら洋風建築でなければならなかった。ところが当時の神戸周辺の大工や棟梁たちは、図面の読み方から採寸まで、洋館建築の工法が全く理解できず、わざわざ横浜まで学びに行き、見ようみまねで建築にとりかかったらしい。当時の記録として、明治元年4月10日に仮病院の上棟式を行ったものの、その夜、たまたま暴風があり、せっかくの建物が一夜にして壊れてしまったとのことであるから、当時の関係者の苦勞はいかばかりであったろうか<sup>(1)</sup>。困難にもめげず、再び起工し、明治2年4月20日に神戸病院は落成する。藤田英夫氏の研究によれば、神戸病院の位置は現在の下山手通八丁目の雅叙園ホテルに相当するという<sup>(2,3)</sup>。そうであれば楠キャンパスから東南の方向1キロ内外の所に神戸大学医学部の発祥の地があるはずである。神戸大学医学部に職を得ている者として、その発祥の地を知らないのは恥という思いに駆られた私たち二人は、平成25年8月15日の終戦記念日の昼休み、神戸病院周辺の古地

図（図1）<sup>(4)</sup>と下山手通八丁目界隈のグーグルマップのコピーを片手に、楠キャンパスの基礎学舎を出発した。地下鉄大倉山駅から宇治川商店街を南に下がり、スーパー・ジョイエールの角を左に折れて本願寺神戸別院（俗称 モダン寺）に向かうと、神戸病院の位置を決める上で重要な役割を果たした再（ふたたび）山道を示す道標を見つけることができる（図2、図3）。再度山（ふたたびさん）は、その昔は摩尼（まに）山といった。弘法大師（空海）は、唐へ渡航する前に船旅の安全と学問成就を摩尼山で祈願したが、無事、帰国を果たした空海が報恩のために「再び」同山を訪れた故事にちなんで摩尼山



図2 再（ふたたび）山道を示す道標（右端）。一方通行の道は再（ふたたび）山道。道標前の常盤湯はない。



図1 兵庫県御免許開港神戸之図（部分）。病院（神戸病院）の南に御パン（番）所があり、その前の辻に道標がある。神戸病院の東南にある善福寺は本願寺神戸別院（通称 モダン寺）の前身。



図3 道標の南面の写真。「左再（ふたたび）山道」。

を「再度山」というようになった。神戸大学医学部五十年史（以下50年史とする<sup>5)</sup>）によれば、この道標のすぐ前に「常盤湯」があるはずであるが、常盤湯は震災後に廃業し既に無い。道標を過ぎてさらにモダン寺の方向に向かい、洋食の朝日、焼肉の満月を経て、西田歯科医院前に至る。この歯科医院の横にある急勾配の坂を江馬坂という（後述）。江馬坂は図1の古地図にはないが、グーグルマップには江馬坂の名前は無いが道路はある。この江馬坂を山側に上ると、その左手（西側）に神戸雅叙園ホテルがあるはずだ。少なくともグーグルマップではそうになっている。しかし、幾らしらみつぶしに探してもホテルは発見できない。やむなく近所の方に神戸雅叙園ホテルの所在を聞くと、震災で壊れて、マンションになったとのことである。そのマンションは、「ジオコート元町山手」といい、グーグルマップでもその名前を確認できる。このマンションの山側に雅叙園の冠の付いた駐車場（雅叙園モータープール）があることより、確かにこの一帯は神戸雅叙園ホテルと関係があるようだ。このマンションとモータープールの間の路地を西に20メートルほど進むと3階建の洋館があり、なんとその表札に（株）雅叙園ホテルとある。グーグルマップにもその表示が確認できるが、どう見ても一般の住居で、ホテルのように見えない。判然としないが、雅叙園ホテルは震災で消失し、その跡地にマン

ション、モータープール、そして（株）雅叙園ホテルの表札を掲げる洋館があるようだ。こうして1時間ほど下山手通八丁目界隈を歩き回った私たちは、暑さに辟易としながら、やっとの思いで大学に戻った。

大学に戻って考えてみると、どうにも使用した古地図があまりにも雑駁すぎるのが気になった。そこでもう少し詳細な神戸地籍之図（明治10年ごろの地図）をスキャナーで取り込んで、これをパソコン上で赤いラインでなぞり、それをグーグルマップの上に重ねた（図4）。その際に下山手通八丁目の再山道の道標と善福寺（のちのモダン寺）の二つに注意して図の縮尺を変え、回転させた。そうすると、もの見事に、公立神戸病院の敷地の江馬坂より西の部分に、上記のマンション、モータープール、（株）雅叙園ホテルが入った。さらに江馬坂の東側にある単位制の学校の神戸セミナーや別のマンションG-BLOCKも公立神戸病院の敷地内に収まった。神戸病院の敷地は、おおよそ隈病院の西側に広がると想像してもらえれば良いだろう。

私たちの神戸病院の跡地探しの旅はこれで終わるはずであった。しかし、神緑会の前田盛会長から、著者の一人（寺島）に、神戸病院の跡地について実地に教えて欲しいという電話が入った。この電話を機会に、私たちの旅は思いもかけない方向に進んでいった。11月1日に前田理事長を伴い、再度、下山手通八丁目の道標、件のマンション、雅叙園モータープールに赴き、最後に（株）雅叙園ホテルと表札にある洋館の前に至った。アポなしであることに躊躇はしたが、思い切ってインターホンを押したところ、当主の東康泰（あずま やすひろ）さんが玄関先に出てこられて、親切に私たちを中に招き入れてくださった。東さんの話では、雅叙園ホテルは旧館と新館があり、いずれも震災で傾き、修復するには多額の費用がかかることより再建をあきらめたとのことである。そして、旧館はモータープールに、新館はマンションに建て替えたとのことであった。さらに東さんの先祖は陳という名の華僑で合昌号（ごうしょうごう）という屋号の貿易商であったこと、明治末に合昌号の事務所兼住居として木造二階建ての建物を当地に建てたこと、事務所は戦火に良く耐え、戦後、改装して神戸雅叙園ホテル（旧館）になったこと、ホテルの南側に新館を建てたとのことであった。そして、奥から1葉の古い



図4 グーグルマップに神戸地籍之図（明治10年ごろ）（赤）を重ねる。

白黒写真を私たちに示した。おそらく明治末期であろう、雅叙園ホテル（旧館）の玄関先に、水タバコを手にした合昌号の経営者（創始者の陳平齋氏か？）が親族と日本人従業員を両側に従えて立っている（図5）<sup>6)</sup>。非常に威厳があり、印象深い写真であった。私たちは、アポなしの訪問ということもあり、早々に帰路についた。

「合昌号」の創始者の陳平齋氏は、中国山東省の生まれで、飢饉のため故郷を離れ、上海にて成長し、明治維新の前後に小さな船で神戸に来たらしい<sup>7)</sup>。そして苦勞して貿易会社の「合昌号」を興し、マッチの貿易で頭角を現した。明治期の神戸は、我が国におけるマッチ製造の最大拠点で、その製品は、中国、インドネシア、そして遠くインドに輸出されていた。これらの地に強力なネットワークをもつ華僑は、マッチの輸出で財力を培ったのである。陳平齋、その子の陳源来率いる合昌号は、当時の神戸華僑の中では、最も有名な貿易商である呉錦堂（ごきんどう）が率いる怡生号（いせいごう）に次いで第二位の貿易高を誇った。神戸華僑は、革命家孫文を強力に援助したが、図6に示した写真は、1913（大正2）年に神戸を訪れた孫文の歓迎会のもので、合昌号の陳源来の顔も確認できる。

神戸病院は1900（明治33）年に下山手通八丁目から楠町に移動するのであるが、移転するまでの神戸病院については、住野公昭名誉教授（公衆衛生学）の論文に詳しい<sup>8,9)</sup>。本稿では、神戸病院の移転後の跡地について若干の補足をしたい。当時の神戸病院の院長であった江馬賤男（えましずお）は、神戸病院の移転先として楠町の地が早晚狭隘になるとして、平野に移転することを主張したが、この主



図5 合昌（ごうしょう）号の事務所の玄関前に並ぶ合昌号の面々。（文献6より）



図6 呉錦堂（ごきんどう）の別荘で開催された孫文の歓迎会。前列左から5人目が孫文、6人目が呉錦堂。後列左から7人目が合昌号の陳源来。（文献6より）

張は退けられた。江馬は憤然として院長職を辞し、1898（明治31）年に花隈町の自宅に江馬内科医院を開業する<sup>10)</sup>。開業医として斬新なアイデアの持ち主であった江馬が開いた内科医院は、盛況を極め、1903（明治36）年に神戸病院の跡地の下山手通八丁目に江馬病院を新築することになる。ここでも医業は繁盛し、江馬病院の前の坂は多くの人力車で埋まり、坂の下には人力車を押すことにより小銭を得ることを目的とした浮浪者がたむろしていた。こうしてこの江馬病院前の坂を江馬坂というようになった<sup>11)</sup>。この江馬病院は、1935（昭和10）年ごろまで下山手通八丁目に存続した。合昌号の第3代目陳（東）叔康氏は、大正期の思い出として、合昌号の前東に江馬病院があったと述べている<sup>8)</sup>。また「江馬坂の東側に江馬病院があり、その道路向かいに雅叙園ホテル旧館があった」という記載を神戸新聞で見つけることができる<sup>11)</sup>。前述したように神戸病院の跡地は江馬坂の東西に広がるが、江馬坂の東が江馬病院で、その西が合昌号（後の神戸雅叙園ホテル旧館）で、両者は坂を隔てて対峙していたことになる。

この合昌号の事務所は、1952（昭和27）年に改装されて雅叙園ホテルになる。雅叙園ホテルは、泊まれる異人館ホテルとして人気であったらしい。北野坂界隈のコロニアル形式の異人館と違って、スクエアな二階建て建築の雅叙園ホテルは、写真で見るととてもシックである（図7）。玄関先には6段の石の階段があり、上り詰めたところに1対の高い門柱がある。この門柱は、現在は、江馬坂を挟んで反対側のマンションG-BLOCKの前に移設され

て、異彩を放っている（図8）。この門柱が、神戸病院の入り口の門柱に似ていて気になる。もし、この門柱が神戸病院の遺残であれば、神戸病院ゆかりのもので唯一実用に供されているものかも知れない。一方、1980（昭和55）年に竣工した雅叙園ホテルの新館は、旧館の海側に隣接していた。新館は地上7階、地下1階のホテルで、旧館のエキゾチックな雰囲気を壊さないように工夫された設計だったらしい。田村正和主演の「過ぎし日のセレナーデ」などテレビドラマなどにも使用されたようである。雅叙園ホテル新館の写真はなかなか見つかること

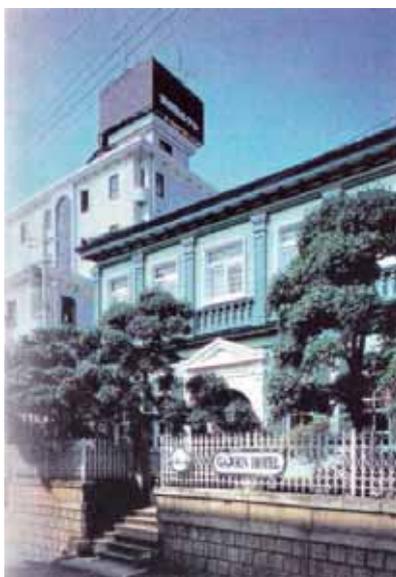


図7 泊まれる異人館ホテルとして人気が高かった雅叙園ホテルの旧館。奥に新館が見えるから昭和55年以後の写真だろう。



図8 雅叙園ホテル旧館の門柱は道路向かいのマンション前に移設された。

ができなかったが、「近代建築」という雑誌に設計図と外観および内装の写真を見つけた（図9）<sup>(12)</sup>。明治41年（一説には明治39年）に創建され、戦災にも耐えた旧館に比べて、新館の命は短かった<sup>(13)</sup>。旧館、新館ともに1995（平成7）年の震災で損壊し、今ではそれぞれ、モータープールとマンションになった。

以上が下山手通八丁目における神戸病院の跡地の物語である。神戸病院の跡地に雅叙園ホテルは既に無く、マンションと雅叙園モータープールになっている。そしてこの小文が世に出るころには、そのモータープールも現在建築中のマンションに代わっていることだろう。私たち二人の神戸病院の跡地を尋ねる小さな旅は、こうして終わりを迎えることになった。

（平成26年1月8日記）

#### 文献と注釈

- (1) 村田誠治著 神戸開港30年史 1898（明治31）年。
- (2) 藤田英夫著 神戸病院の明治初期の写真に関する一考察 神戸史談255号、1-10、1984（昭和59）年。
- (3) 藤田英夫著 「大阪舎密局の史的展開 京都大学の源流」page 174-183．思文閣出版（京都）1995（平成7）年。
- (4) 若林良 図写 兵庫県御免許神戸開港之図 小嶋屋伊兵衛出版（大阪）1868（慶応4）年。



図9 雅叙園ホテル新館の遠景。（文献12より）

この図版は何度も繰り返して出版されており、明治2年に創建された神戸病院を確認できる。

- (5) 神戸大学医学部50年史編纂委員会編(委員長岡田安弘)神戸大学医学部五十年史 1995(平成7)年5月発行.
- (6) 鴻山俊雄著 神戸の外国人 外国人墓地と華僑風俗 華僑問題研究所 1984(昭和59)年6月発行.
- (7) 池田健雄著 ある華僑の家族の歴史 神戸華僑陳氏調査ノート. 千葉大学人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書264,37-48,2013(平成25)年
- (8) 住野公昭著 明治期の神戸病院 40周年記念事業資料から 神戸大学医学部神緑会学術誌 1, 57-59, 1985.

- (9) 住野公昭著 明治期の神戸病院 その後の資料から 神戸大学医学部神緑会学術誌 2, 85-89, 1986(昭和61)年.
- (10) 江馬文書研究会(著)江馬家来簡集 思文閣出版 1984(昭和59)年3月 page 290.
- (11) 坂物語 江馬坂 神戸新聞(神戸市内版) 1986(昭和61)年5月23日版.
- (12) 宮谷栄治著 神戸雅叙園ホテル 近代建築 1981(昭56)年4月号, 75-79.
- (13) 合昌号の2階建て木造の事務所兼住居が下山手八丁目に建築されたのは、近代建築(12)および鴻山著「神戸の外国人」(6)によれば明治41年であるが、神戸新聞の坂物語の記事(11)、住野名誉教授の論文(8)では明治39年となっていて判然としない。

Webサイトの構築・管理 / 集客・顧客管理ツール

# Webコンテンツで集客・契約率をUP!

## Web戦略ならおまかせ!!

目的に合わせた、効果的なWebサイトを制作いたします。  
 お客様への認知度アップを図りたい... タイムリーに企業情報を発信したい...  
 採用情報でよい人材を確保したい... 忙しくて頻繁に更新する時間がない...  
 etc

幅広い業種の  
**Web制作実績**

集客力に繋がる  
**SEO対策**

HP制作中後も  
**手厚いフォロー**

**お客様を逃がさずゲット**

新規顧客開拓ツール **顧客開拓**

- 1 関心度の高い顧客をリストアップ
- 2 事前に起業の興味を把握して、営業活動
- 3 企業ごとにアクセス解析が可能

既存顧客マーケティングツール

メール会員になってもらい、定期的にお知らせやお得な情報を店側から発信する積極的マーケティングのお手伝い。

モバイルサイトも制作OK!

**交友印刷株式会社**

本社 〒650-0047 神戸市中央区港島南町5丁目4-5  
 はりま支店 〒675-0064 加古川市加古川町溝之口251番1 松庵番館101号  
 友月書房 〒651-0096 神戸市中央区雲井通5丁目3-1 サンバルビル2F  
 E-mail: info@koyu-p.co.jp http://www.koyu-p.com

TEL.078-303-0088(代) FAX.078-303-1320  
 TEL.079-456-1251 FAX.079-456-1252  
 TEL.078-221-4886 FAX.078-221-4887

交友印刷  検索

## 京都大学 iPS 細胞研究所 (CiRA) 便り

国際広報室 渡 邊 文 隆

平素より神緑会の皆様からは弊研究所への多大なご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。前回の CiRA 便りでは、「神緑会への感謝の集い」についてご案内させていただきました。急なご案内にも関わらず多くの方々にご参加くださり、本当にありがとうございます。今回は、開催報告として、当日の様子をご報告差し上げたいと思います。

(ご参加くださった方のうち希望者には、2月中旬に、当日の記念写真を送付いたしました。2月末になっても届いていないという方は、お手数ですが末尾の連絡先にご一報ください)

### 「神緑会への感謝の集い」を 神戸ポートピアホテルで開催



プレゼンテーションを行う  
山中所長

2013年12月22日(日)、神緑会の方々からの物心両面でのご支援に感謝の意を表して、iPS 細胞研究所主催の「神緑会への感謝の集い」を神戸ポートピアホテルで開催いたしました。

当日は、約130名の方々にお越しいただき、大変な盛会となりました。

最初に、京都大学の小寺秀俊理事・副学長がご挨拶をさせていただきました。iPS 細胞研究基金の目的や CiRA の使命に言及するとともに、iPS 細胞研究所から神戸大学大学院医学研究科の「iPS 細胞応用医学分野」に着任した青井貴之教授を紹介し、神戸大学と京都大学が協力して日本の医療をより良いものにしていきたいという思いを表明しました。

次に、iPS 細胞研究所の山中伸弥所長が「ご支援の御礼と研究の進捗」と題してプレゼンテーションを行いました。これまでのご支援に厚く御礼申し上げますとともに、パーキンソン病や血液疾患、脊髄損傷といった、iPS 細胞を使った治療法開発の研究が臨床研究に近づいている疾患の研究や、ALS などの難病を対象とした創薬への貢献につながる研究につい

て説明し、iPS 細胞研究の現状と今後の課題についてお伝えしました。プレゼンテーションでは随所に学生時代の思い出や、恩師の先生とのエピソードが挟まれ、会場の笑いを誘っていました。iPS 細胞研究の長期的な展望としては、医療用 iPS 細胞ストックの構築、再生医療の普及、創薬や個別化医療などを挙げ、これらを20年～30年にわたって担う人材を確保するために、長期的な財源が必要だと訴えました。

休憩をはさみ、後半は交流会が行われました。神緑会会員でもある神戸大学の根木昭理事・副学長から乾杯のご挨拶をいただき、会の方々とお寺副学長、山中所長、CiRA 副所長の森澤真輔などが懇親を深めさせていただきました。山中所長は全テーブルへご挨拶に伺い、テーブルごとの記念撮影も行いました。山中所長と同期の方々とのテーブルでは、ひときわの盛り上がりを見せていました。

また、会場の後ろには iPS 細胞研究についてのパネルが設置され、iPS 細胞研究所のサイエンスコ



各テーブルで記念撮影が行われました。後列一番右の根木副学長には、乾杯のご挨拶をいただきました

コミュニケーターが最新の研究トピックを紹介しました。

交流会の後は、神緑会会長の前田盛先生がご挨拶に立ってください、今後のご支援について力強いメッセージをいただき



前田会長によるご挨拶

きました。そして最後に再び山中所長が閉会のご挨拶を差し上げました。改めてこれまでの神緑会の方々からのご支援に御礼を申し上げ、閉会となりました。

### アンケートの声とパンフレット配布協力

アンケートには、「素晴らしい会だった」「今後も支援します」といった声を多数いただいたほか、「研究をやっていますがモチベーションが上がります」という若手会員の方からの声もありました。山中所長へのお気遣い、労いの声も多く、心より感謝申し上げます。

担当者としての所感を述べさせていただきますと、当日は神緑会の皆様にお会いして、iPS細胞という技術が、このような温かい方々に支えていただいているという事に心からの感謝を感じた次第です。

通常、iPS細胞研究所の寄附者感謝の集いは、患者さんのご参加が多く、期待の言葉をいただいて気が引き締まる思いでありましたが、今回の集いはそれとは別の温かみがありました。それは、神緑会の皆様が、医療という仕事はもちろん、その中における研究開発の大変さを深くご理解くださっているからだと思います。本当に、かけがえのない支援者の方々だという実感を強くしました。

なお、今回の集いでは、iPS細胞研究基金のパンフレットを、ご自分が経営されている医院などに設置していただける方、お知り合いに配っていただける方を募集しました。後日集計したところ、なんと来場者のうち100名を超える方々にご賛同いただき、合わせて約3300部ものパンフレットを配布できることになりました。

iPS細胞研究基金はまだまだ一般の方々には知られておらず、このような形で周知広報にご協力いた

だけるのは大変有難いことです。

当日「神緑会への感謝の集い」にご参加いただけなかった方でも、もし基金パンフレットの配布にご協力くださる方がおられましたら、以下の方法でご連絡いただければ幸いです。

今後ともご指導、ご支援いただけますよう、所員を代表してお願い申し上げます。

### 【基金パンフレット配布へのご協力方法】

iPS細胞研究基金のパンフレット配布にご協力くださる方は、末尾のご連絡先にメールかお電話、FAXなどでご連絡いただき、

神緑会会員である旨 お名前 必要なパンフレットの部数 送付先ご住所 をお教えください。

在庫のない場合などを除き、2週間ほどでお届けいたします。

### 【iPS細胞研究基金へのご寄附方法】

iPS細胞研究基金へのご寄附を検討されている方は、以下の連絡先にお電話やメールでご連絡ください。その際に、「神緑会の だす」とご連絡いただければ幸いです。ご寄附を希望される方には、資料をお送りいたします。また、京都大学基金ウェブサイトからは、クレジットカード等でもご寄附いただけます。（毎月、年2回、年1回の定期的なご寄附も可能です）

ご寄附をくださった方には、後日アンケートをお送りしています。そのご返送の際には、「神緑会」ご所属の旨をご記載ください。

### 【連絡先】

iPS細胞研究所 iPS細胞研究基金事務局  
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53  
TEL：075-366-7152 FAX：075-366-7023  
メール：ips-kikin@cira.kyoto-u.ac.jp

京都大学基金ウェブサイト

「京都大学基金」で検索してください。URLは以下の通りです。

<http://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/>

注；山中プロジェクト支援であること、神緑会員からであることを明記下さい。

## 山中伸弥先生による 「神緑会への感謝の集い」に出席して

梶 田 明 義（昭和34年卒）

山中先生からの呼びかけにより、昨年12月22日（日）の夕、神戸ポートピアホテルの大広間で、京大 iPS 細胞研究所主催による“研究支援感謝の集い”が開催された（無料）。京大の小寺秀俊副学長を始め多くの関係者が出席し、神緑会からは前田盛神緑会会長及び会員約120名との交流会が行われた。

### 寄付による研究基金の使用目的

山中先生は研究基金寄付の目的として次の様に話された。

iPS 細胞研究所は、この数年で

劇的な進展をしているが、その医療応用はまだ道半ばで、研究の進展、拡大に伴って公的資金源ではカバーしにくい点が挙げられる。

- 1) 優秀な人材確保の為の経費。
- 2) 特許の専門家の確保。特許をめぐる裁判費用は、公的研究費での使用は許されない。
- 3) 産業連携の為の契約担当者、広報専門家、経験豊富な技術者の確保、秘書などに要する費用も公的研究費には含まれていない等。

この様に研究成果の実用化に伴う環境整備が我が国では未熟である点を強調された。（表1）

表1 熾烈な国際的特許争い

国 / 地域	成立件数	国 / 地域	成立件数
日 本	10	南アフリカ	2
米 国	7	ロシア・カザフスタン	2
シンガポール	3	欧州（17カ国）	1
英 国	2	オーストラリア	1
香 港	2	イスラエル	1
ニュージーランド	2	カ ナ ダ	1
メキシコ	2	中 国	1

京都大学 iPS 細胞特許成立国（産経新聞、2014.2）



前列左端が筆者

### “ガラスの天井”を突き破る快挙

しかし神緑会員として、気になることを当日話されたことを追記したい。それは奈良先端科学大学院より京大に赴任された時、先生にお母様から「京大に行くと、いじめられるのではないかと心配」と云われたそうです。

著者の友人や先輩の中でも、京大大学院を中退したり、卒業しても挫折感を持った人達を知っている。山中先生は生まれつきの楽天的性格と、かざらぬ人柄で研究室の運営をスムーズに遂行されている様に思える。又ラグビーやマラソンできたえられたスポーツマン・スピリットにより、様々な研究上の困難をクリアーして、ついに「ガラスの天井」を突破した点を高く評価し心から称賛の拍手を贈りたい。なお個人として目に見える形での応援の仕方として、次に述べる手段が考えられる。

山中先生が、研究所所長として御自身の研究発展のみならず、その有効性、安全性を確認して、多くの難治性疾患の治験実用化に、一日でも早く実現される様、心からなる支援をしてあげたいと考えた。

### 京大 iPS 細胞研究基金寄付の方法

個人として寄付する方法として、前頁を参照されたい。

## 厚生労働省関係者による講演会を開催

神戸大学医学研究科と医学部附属病院では、昨年12月27日（金）に年末恒例の厚生労働省関係者による講演会がシスメックスホールにおいて開催されました。

講演は、人事院職員福祉局職員福祉課健康安全対策推進室長の永田充生先生と、独立行政法人福祉医療機構審議役の山本光昭先生（59年卒）をお招きして行われました。

両先生の講演に引き続いて、神戸低侵襲がん医療

センター病院長の藤井正彦先生（57年卒）、松波総合病院総合内科の佐方信夫先生（H.16年卒）による講演も行われました。

また、来年度の厚生労働省採用予定者である住友病院の川田裕美 研修医（H.24年卒）、市立加西病院の松本千寿 研修医（H.24年卒）の紹介と、お二人から抱負の発表がありました。

講演題目等は次のとおりです。

日時：平成25年12月27日（金）15：00～17：00

場所：シスメックスホール

### プログラム

開会挨拶 大学院医学研究科 片岡 徹 研究科長

#### 第1部講演（15：05～16：15）

##### 「健康医療戦略に関して」

人事院 職員福祉局職員福祉課

健康安全対策推進室長

永田 充生 先生

##### 「医業経営に関わる最近の話題」

独立行政法人福祉医療機構 審議役 山本 光昭 先生（59年卒）

##### 「低侵襲がん医療への新たな取り組み」

神戸低侵襲がん医療センター 病院長 藤井 正彦 先生（57年卒）

##### 厚生労働省採用予定者の紹介と抱負発表

住友病院 研修医

川田 裕美（H.24年卒）

市立加西病院 研修医

松本 千寿（H.24年卒）

#### 第2部講演（16：15～17：00）

##### 「日本の医療費は抑えられるのか？」

～世界の医療保険制度と比較して～

松波総合病院総合内科

佐方 信夫（H.16年卒）

開会挨拶 医学部附属病院 杉村 和朗 病院長



開会挨拶をする片岡研究科長



永田室長



山本審議役



藤井がん医療センター病院長



佐方 先生



抱負を述べる松本研修医



抱負を述べる川田研修医



閉会の挨拶をする杉村病院長



懇親会

平成26年 2月 1日現在

神戸大学病院外来担当医一覽表 (No.2)

神戸大学医学部附属病院医事課  
代表 TEL 078-382-5111 FAX: 5285

外科・外科系診療科分(内科・内科系分は附属病院のホームページ http://www.hosp.kobe-u.ac.jp/topic/docs/hp12f.pdf をご覧下さい。)

領域名	診療科等	月	火	水	木	金	
外科	食道胃腸外科 TEL-FAX:382-5925-5939 科 長:掛地 吉弘 外来医長:今西 達也 病棟医長:鈴木 知志	初診 再診	掛地 吉弘【教授】 鈴木 知志 今西 達也	掛地 吉弘【教授】 鈴木 知志 今西 達也	掛地 吉弘【教授】 鈴木 知志 今西 達也	掛地 吉弘【教授】 鈴木 知志 今西 達也	田中 賢一【准教授】 山下 公大 山本 将士【午後】 金治 新悟【午後】
	肝胆脾外科 TEL-FAX:382-6302-6307 科 長:具 英成 外来医長:岡崎 太郎 病棟医長:新関 亮	初診 再診	(初診なし) 松本 拓【胆道】【毎週】	具 英成【教授】【第1, 3, 5週】 楠 信也【准教授】【肝臓】 蔵満 薫【肝移植】	担当医 木下 秘我【肝臓】【第1, 3, 5週【午前】】 木下 秘我【肝臓】【第2, 4週【午後】】 松本 透平【肝臓】 武部 敦志【肝臓】【第1, 3, 5週【午後】】 【第2, 4週【午前】】 後藤 直大【肝臓】	(初診なし) 担当医 具 英成【教授】 福本 巧【准教授】【肝移植】 味木 徹夫【特命教授】【胆道】 新関 亮【肝臓】 浅利 貞毅【肝臓】 木戸 正浩【肝臓】【毎週】 宇佐美 真【保・教授】【肝臓】【第4週】 田中 基文【肝臓】【毎週【午後】】 岡崎 太郎【胆道】	具 英成【教授】 福本 巧【准教授】【肝移植】 味木 徹夫【特命教授】【胆道】 新関 亮【肝臓】 浅利 貞毅【肝臓】 木戸 正浩【肝臓】【毎週】 宇佐美 真【保・教授】【肝臓】【第4週】 田中 基文【肝臓】【毎週【午後】】 岡崎 太郎【胆道】
	乳腺内分分泌外科 TEL-FAX:382-6302-6307 科 長:具 英成 外来医長:河野 誠之 病棟医長:河野 誠之	初診 再診	(初診なし)	高尾 信太郎【特命教授】 河野 誠之	(初診なし)	(初診なし) 担当医(予約のみ)	(初診・再診なし)
	心臓血管外科 TEL-FAX:382-5942-5959 科 長:大北 裕 外来医長:松森 正術 病棟医長:井上 武	初診 再診	大北 裕【教授】 野村 佳晃【午前】、松森 正術【午前】	大北 裕【教授】 岡田 博次【准教授】 坂本 敏仁【午前】 森本 直人	(初診・再診なし)	大北 裕【教授】 岡田 博次【准教授】 井上 武 宮原 俊介【午前】	大北 裕【教授】 山中 勝弘【午前】
	呼吸器外科 TEL-FAX:382-5942-5959 科 長:眞庭 謙昌 外来医長:田内 俊輔 病棟医長:法華 大助	初診 再診	眞庭 謙昌【教授】 田内 俊輔 法華 大助	(初診・再診なし)	(初診・再診なし)	(初診・再診なし)	(初診・再診なし)
	小児外科 TEL-FAX:382-5942-5959 科 長:大北 裕 外来医長:久松 千恵子 病棟医長:久松 千恵子	初診 再診	久松 千恵子 久松 千恵子	(初診・再診なし)	(初診・再診なし)	久松 千恵子 久松 千恵子	久松 千恵子【午後】
	整形外科 TEL:382-5985 FAX:351-6944 科 長:黒坂 昌弘 外来医長:国分 毅 病棟医長:秋末 敏宏 備考:該当疾患担当医が 診療している日に受診 して下さい。	初診 再診	前野 耕一郎 国分 毅・原 仁美 藤岡節:黒坂 昌弘【教授】、黒田 良祐【准教授】 松下 雄彦、松本 知之、高山 孝治 スボーツ【午後】:黒坂 昌弘【教授】、 黒田 良祐【准教授】、松本 知之、 高山 孝治 *精練リハビリ:酒井良忠【特命教授】、原 仁美 ※(入院患者のみ対象) *リハビリ:酒井 隆井良忠【特命教授】	秋末 敏宏、藤代 高明、河本 旭哉 黒坂 昌弘、大西 康夫 *リハビリ:酒井 隆井良忠【特命教授】、 *三浦 靖史【保・准教授】、 *足【午前】:神崎 至幸 *腫瘍【午後】:秋末 敏宏、河本 旭哉、大西 康夫 *病棟リハビリ:新倉 隆宏、角谷 賢一朗 西本 華子 ※(入院患者のみ対象)	黒坂 昌弘【教授】、黒田 良祐【准教授】 西田 康太郎、松下 雄彦、林 申也、松本 知之 青雅【終日】:西田 康太郎、角谷 賢一朗 *生物製剤:三浦 靖史【保・准教授】 *外傷:新倉 隆宏、李 相亮 *病棟リハビリ:酒井 隆井良忠【特命教授】、 三浦 靖史【保・准教授】、乾 淳幸 *リハビリ:酒井 隆井良忠【特命教授】	乾 淳幸、岩倉 崇 *上肢【終日】:国分 毅、美松 泰、 乾 淳幸 *リハビリ:酒井 隆井良忠【特命教授】 *腫瘍【午後】:秋末 敏宏、河本 旭哉、 原 仁美、大西 康夫	
	脳神経外科 TEL-FAX:382-5966-5979 科 長:甲村 英二 外来医長:谷口 理章 病棟医長:阿久津 直行	初診 再診	甲村 英二【教授】 細田 弘吉【准教授】 藤田 敦史 甲田 将章	藤山 隆司 木村 英仁 水川 克 *機能的脳神経外科外来【午後】【要予約】 *脳腫瘍外来【午後】【要予約】	甲村 英二【教授】 谷口 理章 木村 英仁 田中 一寛 甲田 将章【隔週】	甲村 英二【教授】 谷口 理章 木村 英仁 藤山 隆司	甲村 英二【教授】 谷口 理章 木村 英仁 藤山 隆司
	眼 科 TEL-FAX:382-6048-6059 科 長:中村 誠 外来医長:長井 隆行 病棟医長:本田 茂	初診 再診	中村 誠【教授】 金森 章泰 *入院中【午後】担当医 *眼科【午前】:安積 洋【第二月曜のみ】長井 隆行 *眼科【午後】:塚原 康友【准教授】、本田 茂 *リハビリ【午後】:安積 洋【第二月曜のみ】藤原 雅史 *義眼【検査、第1-3週【午後】】 松宮 亘	藤原雅史 *神経科弱視【午前】:山田 裕子、金森 章泰 *黄斑診察【午前】:塚原 康友【准教授】、 本田 茂、松宮 亘 *神経科弱視【午後】:山田 裕子 *黄斑治療【午後】:本田 茂 長井 隆行、松宮 亘	山田 裕子、長井 隆行 藤原雅史 *黄斑診察【午前】:塚原 康友【准教授】、 本田 茂、松宮 亘 *神経科弱視【午後】:山田 裕子 *黄斑治療【午後】:本田 茂 長井 隆行、松宮 亘	中村 誠【教授】、塚原 康友【准教授】 *線内【終日】:山田 裕子、金森 章泰 *角膜炎【午前】:長井 隆行 *角膜炎【午後】:長井 隆行 松宮 亘	中村 誠【教授】、塚原 康友【准教授】 *線内【終日】:山田 裕子、金森 章泰 *角膜炎【午前】:長井 隆行 *角膜炎【午後】:長井 隆行 松宮 亘

外科系

領域名	診療科等	区分	月	火	水	木	金	
外科系	耳鼻咽喉科 ・頭頸部外科 TEL・FAX:382-6021-6039 科 長:丹生 健一 外来医長:山下 大介 病棟医長:森本 浩一	初診	・丹生 健一【教授】 ・大月 直樹【准教授】	・齋藤 幹 ・四宮 隆 ・柴田 智久 ・顔面神経、鼻、喉頭、遺伝性難聴【午後】 ・難聴【腫瘍】【午後】	・初診なし	・担当医	・担当医	
		再診	・繁治 純、小松 弘和 ・めまい・耳	・四宮 弘隆・小嶋 康隆 ・甲状腺、唾液腺 ・腫下【午後】				
	泌尿器科 TEL・FAX:382-6155-6169 科 長:藤澤 正人 外来医長:石村 武志 病棟医長:村藤 基次	初診	・白川 利朗【准教授】 ・遺伝子治療:白川 利朗【准教授】 ・過活動膀胱:江夏 徳寿 ・排尿障害:西川 昌友	・荒川 勲【特命教授】 ・不妊・ED・松下 駿、岡田 桂輔 ・腎移植:竹田 雅、小川 悟史 ・結石:石村 武志・感染症:鄭 裕元 ・小線源【午後】:村藤 基次、古川 順也 ・前立腺【午後】:白川利朗【准教授】 ・遺伝子治療【午後】:白川 利朗【准教授】	・初診なし	・田中 一志【特命教授】 ・不妊・男性更年期:松下 駿、江夏 徳寿 ・排尿障害:岡田 桂輔 ・感染症:重村 克巳 ・術前:村藤 基次 ・化学療法:原田 健一 ・腫瘍:日向 信之、鄭 裕元【午後】 ・神経因性膀胱【午後】:柳内 章宏	・担当医	・担当医
		再診	・山田 秀人【教授】 ・不育:山田 秀人【教授】 ・腫瘍:生橋 義之 ・婦人科:宮原 義也【2.4週】 ・婦人科:新谷 澤【1.3、5週】 ・妊婦:松岡 正造 【子宮卵管造影】 ・MD双胎 平久 進也	・荒川 勲【特命教授】 ・不妊・ED・松下 駿、岡田 桂輔 ・腎移植:竹田 雅、小川 悟史 ・結石:石村 武志・感染症:鄭 裕元 ・小線源【午後】:村藤 基次、古川 順也 ・前立腺【午後】:白川利朗【准教授】 ・遺伝子治療【午後】:白川 利朗【准教授】	・初診なし	・田中 一志【特命教授】 ・不妊・男性更年期:松下 駿、江夏 徳寿 ・排尿障害:岡田 桂輔 ・感染症:重村 克巳 ・術前:村藤 基次 ・化学療法:原田 健一 ・腫瘍:日向 信之、鄭 裕元【午後】 ・神経因性膀胱【午後】:柳内 章宏	・担当医	・担当医
	産科婦人科 TEL・FAX:382-6005-6019 科 長:山田 秀人 外来医長:出口 雅士 病棟医長:森田 宏紀 松岡 正造	初診	・山田 秀人【教授】 ・不育:山田 秀人【教授】 ・腫瘍:生橋 義之 ・婦人科:宮原 義也【2.4週】 ・婦人科:新谷 澤【1.3、5週】 ・妊婦:松岡 正造 【子宮卵管造影】 ・MD双胎 平久 進也	・山田 秀人【教授】 ・不育:山田 秀人【教授】 ・腫瘍:生橋 義之 ・婦人科:宮原 義也【2.4週】 ・婦人科:新谷 澤【1.3、5週】 ・妊婦:松岡 正造 【子宮卵管造影】 ・MD双胎 平久 進也	・初診なし	・田中 一志【特命教授】 ・不妊・男性更年期:松下 駿、江夏 徳寿 ・排尿障害:岡田 桂輔 ・感染症:重村 克巳 ・術前:村藤 基次 ・化学療法:原田 健一 ・腫瘍:日向 信之、鄭 裕元【午後】 ・神経因性膀胱【午後】:柳内 章宏	・担当医	・担当医
		再診	・山田 秀人【教授】 ・不育:山田 秀人【教授】 ・腫瘍:生橋 義之 ・婦人科:宮原 義也【2.4週】 ・婦人科:新谷 澤【1.3、5週】 ・妊婦:松岡 正造 【子宮卵管造影】 ・MD双胎 平久 進也	・山田 秀人【教授】 ・不育:山田 秀人【教授】 ・腫瘍:生橋 義之 ・婦人科:宮原 義也【2.4週】 ・婦人科:新谷 澤【1.3、5週】 ・妊婦:松岡 正造 【子宮卵管造影】 ・MD双胎 平久 進也	・初診なし	・田中 一志【特命教授】 ・不妊・男性更年期:松下 駿、江夏 徳寿 ・排尿障害:岡田 桂輔 ・感染症:重村 克巳 ・術前:村藤 基次 ・化学療法:原田 健一 ・腫瘍:日向 信之、鄭 裕元【午後】 ・神経因性膀胱【午後】:柳内 章宏	・担当医	・担当医
	形成外科 TEL・FAX:382-6252-6269 科 長:寺師 浩人 外来医長:江尻 浩隆 病棟医長:高須 啓之	初診	・寺師 浩人【教授】 ・一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3.5週】 ・二つもの形成外科:野村 正 ・眼瞼:一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3.4.5週】 ・眼瞼:一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3.4.5週】	・寺師 浩人【教授】 ・一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3.5週】 ・二つもの形成外科:野村 正 ・眼瞼:一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3.4.5週】 ・眼瞼:一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3.4.5週】	・初診なし	・寺師 浩人【教授】 ・一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3.5週】 ・二つもの形成外科:野村 正 ・眼瞼:一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3.4.5週】 ・眼瞼:一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3.4.5週】	・担当医	・担当医
		再診	・寺師 浩人【教授】 ・一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3.5週】 ・二つもの形成外科:野村 正 ・眼瞼:一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3.4.5週】 ・眼瞼:一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3.4.5週】	・寺師 浩人【教授】 ・一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3.5週】 ・二つもの形成外科:野村 正 ・眼瞼:一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3.4.5週】 ・眼瞼:一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3.4.5週】	・初診なし	・寺師 浩人【教授】 ・一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3.5週】 ・二つもの形成外科:野村 正 ・眼瞼:一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3.4.5週】 ・眼瞼:一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3.4.5週】	・担当医	・担当医
	美容外科 TEL・FAX:382-5822-5823 科 長:一瀬 晃洋 外来医長:一瀬 晃洋	初診	・一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3.5週】 ・一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3週】 ・一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3週】	・一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3.5週】 ・一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3週】 ・一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3週】	・初診なし	・一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3.5週】 ・一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3週】 ・一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3週】	・担当医	・担当医
		再診	・一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3.5週】 ・一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3週】 ・一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3週】	・一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3.5週】 ・一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3週】 ・一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3週】	・初診なし	・一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3.5週】 ・一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3週】 ・一瀬 晃洋【特命准教授】【第1.3週】	・担当医	・担当医
麻酔科 ・ペインクリニック科 TEL・FAX:382-6172-6189 科 長:溝渕 知同 外来:佐藤 痛棟:高雄	初診	・高雄 由美子【准教授】 ・佐藤 仁昭	・高雄 由美子【准教授】 ・佐藤 仁昭	・初診なし	・高雄 由美子【准教授】 ・佐藤 仁昭	・担当医	・担当医	
	再診	・高雄 由美子【准教授】 ・佐藤 仁昭	・高雄 由美子【准教授】 ・佐藤 仁昭	・初診なし	・高雄 由美子【准教授】 ・佐藤 仁昭	・担当医	・担当医	
歯科 ・歯科口腔外科 TEL・FAX:382-6213-6229 科 長:古森 孝英 外来医長:濱谷 恭之 病棟医長:南川 勉 備考:初診担当医は、同 時に再診を行います。	初診	・古森 孝英【教授】 ・後藤 智子、神原 晶子 ・担当医	・古森 孝英【教授】 ・後藤 智子、神原 晶子 ・担当医	・初診なし	・古森 孝英【教授】 ・後藤 智子、神原 晶子 ・担当医	・担当医	・担当医	
	再診	・古森 孝英【教授】 ・後藤 智子、神原 晶子 ・担当医	・古森 孝英【教授】 ・後藤 智子、神原 晶子 ・担当医	・初診なし	・古森 孝英【教授】 ・後藤 智子、神原 晶子 ・担当医	・担当医	・担当医	

【記号の意味】  
 ( )は要予約外来、【 】は職名、( )は担当疾患または記載の疾患を診療するための外来、[ ]は補足説明の意。  
 【記載について】  
 医師名から記載されていない場合は、専門外来です。  
 職名は准教授以上の教員に限り記載しています。【教授】は医学研究科教授、【准教授】は医学研究科准教授、【保・教授】は保健学科学科教授、【保・准教授】は保健学科学科准教授、【保管・教授】は保健管理センター教授の意。  
 (一覧表の補足説明)  
 初診担当医は、同時に再診も行っております。  
 (地域の先生へのご案内)  
 本表は、セカンドオピニオン外来担当医の一覧表ではありません。セカンドオピニオン外来は、医療機関のみから申し込みできる要予約外来で担当医は、医療機関から予約申込を頂いてから決定します。患者様をご紹介していただくときは、地域医療推進室へFAXして予約をしてください。( )に記載の疾患は、基本的に該当医師が診療しますので、該当曜日に受診するようご紹介ください。

第100回 日本消化器病学会総会会長挨拶

## 新たな消化器病学の展開と医療の在り方を求めて

日本医科大学 消化器内科学 坂本長逸（昭和49年卒）

いよいよ第100回日本消化器病学会総会の始まりです。4月23日（水）～26日（土）の4日間、先生方の熱い議論を期待しています。

さて、ご存じのように日本消化器病学会は1898年に創立されて以来、110年以上の歴史があり、会員数は現在3万3千人を超え、消化器内科医が約75%、消化器外科医が約25%を占めております。今回の日本消化器病学会のメインテーマは「新たな消化器病学の展開と医療の在り方を求めて」といたしました。これは第100回という大きな節目を迎えて、これまで築き上げられた消化器病学がさらに大きく飛躍することを願うと同時に、科学としての消化器病学の進歩が常に医療に反映されるよう、私たちの努力が必要であることを示したテーマです。今回の総会の特徴は何と言っても100回総会を特別なものとする第100回日本消化器病学会総会記念事業です。これまでの日本の消化器病学の発展を、学会長パネルの展示や、上部消化管、下部消化管、肝臓、胆のう・膵臓4分野にわたる全53テーマの進歩に関する展示を通じて振り返りつつ、新たな展開をどのように模索するかについて議論する予定です。消化器病学会の各領域の専門家にご執筆願ひ、それぞれの領域の貴重な画像が提供されており、今日における消化器病学の発展が簡潔に解説されているので、先生方にはぜひパネル展示をご覧いただきたいと存じます。また資料の作成にあたって下さった先生方にはこの場をお借りして御礼申し上げますと存じます。

さらに、100回総会を特別な総会とするべく記念講演、特別企画、特別講演を数多く企画いたしました。この抄録集を見ていただければ、これまでの総会とは少し違う企画であることが分かっていただけたと思います。記念講演では、2015年度日本医学会会頭、井村裕夫先生から、日本の臨床研究の問題点と将来の方向についてご講演を賜る予定です。また、これまでの日本の消化器病学者と深く関わった米国の消化器病学者4名を招いて、私と東北大学教授 下瀬川徹先生の司会でこれまでの交流



の歴史と今後の交流のありかたについてパネルディスカッションを行います。いずれもわくわくするような企画であり、ぜひ議論に加わっていただければと存じます。

今回の学術集会は、医療の在り方についても焦点を当てており、獨協学園理事長寺野彰先生、国立国際医療センター国府台病院院長上村直美先生、国際医療福祉大学前野一雄先生、厚生労働省健康局肝炎対策推進室村上薫先生のご司会で合計6時間のパネルディスカッションを行います。

紙面の関係ですべてをご紹介できませんが、第100回総会記念事業準備委員会の先生方の全面的なご支援のもと企画した記念事業と、第100回総会をぜひ実りあるものとするべく4日間奮闘するつもりでありますので、よろしくお願い申し上げます。

第100回日本消化器病学会総会

公式 HP : <http://www2.convention.co.jp/100jsge/>

## 開催概要

学会名  
第100回日本消化器病学会総会  
The 100th General Meeting of the Japanese Society of Gastroenterology  
会長  
坂本 長逸(日本医科大学 消化器内科学)  
会期  
2014年4月23日(水)~26日(土)  
会場  
東京国際フォーラム(東京都千代田区丸の内3丁目5番1号)  
テーマ  
新たな消化器病学の展開と医療のあり方を求めて  
総採択演題数  
1,290題

## 会長講演・理事長講演・記念講演・特別講演

会長講演  
坂本 長逸(日本医科大学 消化器内科学)  
理事長講演  
菅野健太郎(自治医科大学 消化器内科)  
記念講演  
井村 裕夫(公益財団法人先端医療振興財団)  
特別講演  
・特別講演 1  
高井 義美(神戸大学医学研究科生化学・分子生物学講座)  
・特別講演 2  
中村 祐輔(Department of Medicine, Section of Hematology/Oncology, The University of Chicago, USA)

## 医療パネルディスカッション

[第1部] 消化器病学と医療現場の Discrepancy (乖離)  
司会: 上村 直実(国立国際医療研究センター国府台病院)  
井上 肇(厚生労働省健康局肝炎対策推進室)  
パネリスト:  
1. 久津見 弘(神戸大学消化器内科)  
2. 三輪 洋人(兵庫医科大学内科学上部消化管科)  
3. 小早川雅男(国立国際医療研究センター病院臨床研究センター)  
4. 関野 秀人(厚生労働省医政局)  
[第2部] 地域医療における消化器病学の役割  
司会: 寺野 彰(獨協学園)  
山口 博弥(読売新聞医療情報部)  
パネリスト:  
嘉山 孝正(山形大学脳神経外科)  
藤森 俊二(日本医科大学 消化器内科学)  
福田 健(獨協医科大学)  
小松 裕(衆議院議員)  
[第3部] 真の医療安全のために ~ 医療事故と今日の諸問題 ~ (市民公開講座)  
司会: 前野 一雄(国際医療福祉大学医療福祉学部)  
パネリスト:  
飯野奈津子(NHK 解説員)  
児玉 安司(弁護士)  
山口 育子(患者代表)  
河越 哲郎(医師)

## 神緑会会員名簿2013(平成25)年版の訂正のお願い

編集に誤りがありましたので、謹んでお詫び申し上げます

【P.146 7段目 近藤 誠 先生欄】

(誤) 〒650-0046 勤 兵庫県神戸市中央区港島中町4-6 ☎078-303-6123 ☎078-303-6226  
ポートアイランド病院

(正) 〒874-0833 勤 大分県別府市鶴見3898 ☎0977-22-0391  
新別府病院

神緑会事務局

-----  
会員名簿をご希望の方は、事務局までお申し出下さい。

## 同窓会報告

## 神戸大学医学部昭和48年卒業生 卒後40周年記念同窓会

平成25年11月9日(土)神戸大学医学部昭和48年卒業生の同窓会が有馬温泉兵衛向陽閣にて開催された。参加者は37名(男30名、女7名)でした。卒業生92名ですでに4名鬼籍に入られた方がおられますので42%の出席率でした。

まず代表幹事の黒田先生より挨拶の後、2011年12月30日に亡くなられた中神一人君の冥福を祈り1分間の黙祷を致しました。その後乾杯して食事をしながら楽しい懇談を致しました。参加者は以下の方々です。黒田昭、高橋洋、衣笠達也、堀康郎、金村稔、吉田真策、田淵哲、森幸三郎、赤堀泰一郎、蘆田寛、池田宏遠、石田正矩、井上正則、上村紀志雄、上野浩、遠藤善則、大西一男、木下修、島崎和久、関道雄、玉置政夫、辻本大治、土井恭平、土居忠史、中島義治、古本勝、山崎要、山下義信、李慶懐、小西豊、小笠原(野村)みえ子、奥村満佐子、川口(平山)恵子、下條真理子、谷山(永田)明子、山下(瀬尾)良美、大林加代子

会食中あまりアルコールが沢山入らない内に各々一分間スピーチをする事となり近況とか簡単な経歴を語ってもらいました。うろ覚えの記憶で間違えが有るかも知れませんが、この会に来られなかった同級生のために記載します。間違えていた時はお許しください。

黒田昭君は卒業後8年で三木市で内科開業医となりました。その間医院の他に介護支援事業所も立ち上げ医療と介護両面から患者のケアをされています。また彼は三木市医師会長も引き受け地域医療の行政との交渉役、県医師会との橋渡しなど公的仕事をこなし遺憾なくリーダー役を果たしています。

高橋洋君は外科医となり今年の10月まで三木市民病院院長の大役を果たしていました。小野市民病院との合併で北播磨医療センターの設立に神戸大学医学部との折衝するなど、新病院の企画立案を果たした後退職されました。この度請われて新病院の検査センターを管理する医療監に就任されました。

衣笠達也君は外科医となり三菱病院に奉職しました。親会社が原子力発電の設備を作っているこ

とから万が一の原子力事故が発生した際の緊急時被爆医療危機管理のエキスパートになりました。東海村の臨界事故の際とか今度の福島第一原子力発電所の地震津波災害では現地に赴き緊急時被爆医療の専門医として活躍されました。今年過労のため講演セミナー中に軽度の脳内出血を起しましたが回復され今は元気にされています。

堀康郎君は赤穂市民病院内科で長年勤務されていましたが14年前赤穂市内で堀クリニックを開業され循環器の専門医として地域医療に励まれています。

金村稔君は外科医となり県立加古川病院の勤務を経て自分の生まれ故郷の高砂市で開業されました。開業28年目になりますが7年前に脳梗塞の発作に襲われ左半身の不全麻痺となりました。持ち前のガッツで病魔と闘い現役復帰を果たしておられます。

吉田真策君は小児科医となり公立豊岡病院に医師人生のほとんどを過されています。兵庫県北部の小児科医療は彼の肩に掛かっているといっても過言で無いでしょう。今は病院の若手医師を育てる研修責任者を務めながら趣味のオートバイ乗り、農業などで楽しみながら田舎生活をエンジョイしていると言われています。

田淵哲君は耳鼻科医となり中央市民病院に勤務されていましたがライフワークのめまい、耳鳴りの専門医療のクリニックを立ちあげ働いておられます。

森幸三郎は内科医となり県立塚口病院勤務を経て猪名川町で開業医となり33年目となります。2年前に定期健診で腫瘍マーカーCEAが軽度上昇している事から精査したところ膵臓鉤部に腫瘍が見つかりPD手術を受けました。癌でしたが比較的悪性度の少ないIPMNと言われるタイプでした。今は週半分だけ仕事をして町の地域医療に励んでおります。何とか東京オリンピックを見たいものと念願しております。神緑会川西支部長をしています。

赤堀泰一郎君は産婦人科医となり故郷の津山市で親の代から続く病院を経営されています。色々

大変な苦勞をして親から続く病院を新築されました。幸い産婦人科医となられたご子息が帰ってきてくれ、従兄の産婦人科医の3名で病院を切り盛りされています。現在ホッと一息安心された所ですがまだまだ意欲充実しているとお見受けしました。

蘆田寛君は外科医となり兵庫医科大学で活躍されその後神戸百年記念病院に移られました。若手医師の研修指導責任者となられました、また国保審査会でも専任委員として活躍されておられます。

池田宏遠君は遠く長崎県佐世保より来てくれました。卒後精神科医となり現在佐世保愛患病院で勤務されています。はからずも山下義信君と同じ中学に通っていたそうです。

石田正矩君は内科医となり義父が経営する姫路の病院で勤務されていましたが独立され自分の診療所を持ちました。内科以外に透析医療を始められ腎不全の患者さんのケアに努めておられます。また姫路神緑会会長として医学部同窓会の姫路での要となっておられます。

井上正則君は眼科医となられ大学勤務をされていましたが甲南病院を経て3年前に井上クリニックを高速神戸駅前が開業されました。オールラウンドの眼科医療をされていますが大学病院時代に糖尿病性網膜症を専門とされていたので力を入れているとの事です。彼自身網膜前膜症をわずらい手術されたそうです。今は元気にされています。

上村紀志雄君は内科医となり大阪府寝屋川市で開業されています。仕事は順風漫帆なのですが、数年前に父親が亡くなり兄弟で遺産相続で揉めて裁判をしているそうです。くれぐれも皆さん注意をして下さいとの事です。

上野浩先生は父が創立した仁済会高石病院院長をされていましたが2年前に退任して仁済会の理事長職に就任しました。現在は臨床を離れ大同生命の検診医として多くの方の健康診査を任されています。

遠藤善則君は産婦人科医となり西脇市多可郡で遠藤産婦人科医院を開業されました。医師会長を引き受けられた時には検診センターを整備されました。娘さんも医師となられ病理学を専攻することです。

大西一男君は内科医となり神戸労災病院一筋に勤務され、この度院長に就任されました。労災の工

キスパートです。最近ではアスベストによる中皮腫の問題が大きく取り上げられ全国を講演で飛び回っておられます。

木下修君は麻酔科医となり公立御津病院院長として活躍しておられました。2010年より、きのしたペインクリニックを開設され安全かつ迅速に痛みをとる医療を行い患者さんより喜ばれています。

島崎和久君は整形外科医となり故郷三重県熊野市に帰り整形外科医院を経営されています。島崎整形外科医院の標高は5.5mなので南海地震津波が来た際は心配であると近くに住む友人(玉置君)が言っておられます。是非とも対策を!

関道雄君は内科医となり長田区で関医院を開業して30年が経ちました。消化器内科医となり家に帰ってきてくれた御長男と一緒に診療されています。長らく長田区の医師会長として地域医療の行政との交渉役の大任を果されました。医師会長を退任してほっと息継ぐ閑も無く、今度は近畿厚政局の審議官として出務をされ、大所高所から適正な医療を模索されておられます。

玉置政夫君は三重大学眼科で研修され眼科医となりました。故郷の尾鷲市で眼科医院を開業されています。眼科医の少ない尾鷲地区で彼は目の治療で地域住民の健康を守っています。熊野古道巡りと、ゴルフで御自身の健康維持をされています。彼の医院の標高は24.7mあるので南海地震でも大丈夫と胸を張っておられます。

辻本大治先生は産婦人科医となり長らく愛仁会高槻病院産婦人科で周産期医療に励まれていました。大学時代からの合気道の研鑽が進み高槻市に道場を作られ若手の育成に励んでおられます。思わず「お師匠さま!」と呼びたくなる風貌と成りました。

土井恭平先生は整形外科医となり甲子園球場の前で親から受け継いだ病院を経営されています。少年のような面影は全く変わらず、どうやってアンチエイジングを達成しているのか聞きたいものです。

土居忠史君は整形外科医となり姫路市で開業医となられました。奥様の幸子さんを早くに亡くされましたが一家の大黒柱として家族を立派に守りました。エールを送ります。

中島義治君は内科医となりました。奥様も内科医で二人で東京多摩市で開業していました。2000

年に入所定員130名の介護老人保健施設スターホームを立川市で開所しました。100人の従業員を前に、彼は毎朝施設長の挨拶を通して中島イズムを働く人に教え込んでおられます。入所者の老人を5年間観察してMMSE（簡易精神知能検査）が改善する事を学会で報告されました。素晴らしい介護をしている査証であると思います。

古本勝君は病理医となり姫路循環器センターに長く勤めています。医者としての仕事もさることながら、彼の母堂が設立したエンゼル幼稚園理事長を引き継ぐために通信教育で教員免許を取得しました。一歳児からの保育園も始められ名実共に姫路を代表する幼児教育のメッカを作りました。

山崎要君は内科医となり兵庫医科大学、宝塚市民病院で循環器の専門医として働いていました。宝塚南口駅で開業され地域医療に励まれています。

山下義信君は外科医となり高砂市民病院で勤務されておられました。その後、公立御津病院に移られ副院長で外科医として働いておられました。同級生の木下修院長が退任された後を受け院長に就任されました。2005年御津町が龍野市と合併し、たつの市となり病院もたつの市民病院と改称されました。平成23年から病院新築工事が始まり、昨年病床数120床で新体制が発足しました。山下君は院長としてこれらの大きな仕事を成し遂げられました。

李慶懐先生は循環器の内科医となりました。六甲病院などを経て中央区山手幹線と鯉川筋の交差するところに福家診療所を東洋医学専門医の弟さんと一緒に開業されました。上村紀志雄君のようにならぬようお願いします？

小西豊君は卒後すぐに中央市民病院、西市民病院に勤務され外科医となりました。研鑽を積み乳腺外科のエキスパートとなり2007年神戸アーバン乳腺クリニックを設立しました。三宮駅すぐ近くの一番賃貸料の高いところです。西日本ではトップクラスの手術件数を誇り、ただ癌を取るだけではなく綺麗な再建手術をする事で有名です。若い女性に囲まれてご機嫌で益々頑張れそうだと語っておられました。

小笠原みえ子さんは眼科医となり灘区で小笠原眼科医院を開業されておられました。思うところ有って55歳の時、診療所を後進に譲り現役医師を引退されました。2010年御主人をエベレストで亡くされ傷心のことと思います。お悔やみ申し上げます。

す。同窓会ではお元気な活動的な姿を拝見し安心致しました。

奥村満佐子さんは精神科医となり神戸大学保健学科教授を長らく勤められました。名誉教授となられた後は先輩の中野先生の主催する精神分析研究所を継がれて診療に当たられています。

川口恵子さんは産婦人科医となり神戸神鋼病院で産科婦人科で大活躍をされていましたが病院近くで川口レディースクリニックを開業しておられます。手術の拘束からはなれ気分が楽になったそうです。また婦人科の漢方医療の手引書を川口さんが考えた素敵なイラスト付きで刊行しています。

下條真理子さんは内科医となり神戸海岸病院などに勤務されておられましたが、ある時心の病を発症し一時闘病していました。最近では良い薬が開発され、これも克服し現役の診療復帰されておられます。安心致しました。卒業した時と全く変わらぬ若い容姿に吃驚致しました。

谷山明子さんは内科医となり垂水区で谷山内科クリニックを開業されました。お忙しい中、国保審査会委員も引き受け適正な医療チェックをされています。御主人の谷山教授が長崎大学に赴任したためずっと遠距離恋愛？をされていました。

山下良美さんは産婦人科医となり明石市大久保病院で産婦人科の外来医療を続けておられます。言うまでも無く山下義信夫人ですが同じ医師同士、家庭での話題も共通の分りあえる事が多いのではないのでしょうか。

大林加代子さんは放射線医となり県立加古川医療センターで勤務されています。放射線医師以外に緩和ケアの勉強もして現在緩和ケア内科部長としてがん患者の痛みコントロール、終末期医療などをされています。昨年は200名の患者さんの最後を看取られたそうです。

宴会終了後は記念写真を撮り、5年後の70歳の古希に同窓会を再び開く事が決定されました。大多数の人は二次会のラウンジで飲みなおし歓談しました。宿泊されない一部の人は帰られましたが、当日宿泊する人間は和室に20数名集まりムンムンする所で夜が更けるまで歓談しました。

翌日希望者9名の方々は高橋洋先生のお世話で六甲国際CCでゴルフをしました。暴風雨の注意報が出ていましたが皆の行いが良いためか殆んど雨

に降られることなく大変楽しいゴルフが出来ました。

以上同窓会に参加された方々の近況を報告しました。卒後40年人其々の生き方の違いはありますが、私たちは社会を基礎から支える医療面での仕事師であったと思います。医師として生きてきた40年は、社会のため人々のため大いに役立った至宝のダイヤモンドであると考えて良いでしょう。

60歳代半ばの私達ですが、これからの残りの人生も胸を張って世のため、人のために尽くす人



生でありたいと思います。

(森 幸三郎 記)

支部だよ!!

## 神緑会 芦屋支部

平成25年10月16日(水)に芦屋市内のホテル竹園で神緑会芦屋市支部会の懇親会を行いました。

富永周作先生(昭和29年卒)が平成12年に芦屋市医師会長に就任された時に開催されて以来、13年ぶりの会でした。出席率は47%とまずまずでした。47%と言いましても出席数は8名でした。芦屋市は小さく、人口は96787人(H25年11月1日)です。芦屋市医師会会員数はA会員が102人、B会員が69人です(H25年11月1日)ですので、神緑会芦屋支部の会員数は医師会などでの調べでは18名です。

少人数ですが、ひとりひとりのお話をお聞きすることができ楽しい時間を過ごしました。

先輩の先生方から、昭和59年3月8日社団法人神緑会発足時の第1回神緑会理事会において、芦屋支部を置くことが承認された話であるとか、歴代の支部長の先生の昔話などをお聞きしました。初代支部長は柿沼裕一先生(S29)、2代目は坂東省二先生(S32卒)、3代目は柿沼裕一先生、4代目は寺内嘉一(S38卒)でした。

これからは会員同士の連絡を密にして親睦を深めていきたいと思っています。

平成25年3月2日より須山が支部長を寺内先生から引き継ぎました。よろしく願いいたします。

芦屋支部長 須山 徹(56年卒)





## 第3回 神戸マラソン完走記

兵庫県立がんセンター消化器内科 坂本 岳史 (平成13年卒)

平成13年卒業、兵庫県立がんセンター 消化器内科に勤務している坂本岳史です。

2013年11月17日に行われた、神戸マラソン完走記を寄稿させていただきます。7年前からランニングを始め、フルマラソンは神戸マラソンで13回目です。神戸マラソンは、運よく第1回から3回連続で出場しています。

大会テーマは「感謝と友情」。「被災から復興を果たした神戸からの感謝と、今現在も被害を受けている人々、地域へエールを送るマラソン大会」を目標に掲げています。レース前のセレモニーでは復興のシンボル曲「しあわせ運べるように」を地元の高校と会津若松市立葵高校の生徒が合唱し、黙祷が捧げられました。レース前の高揚した雰囲気の中に、厳かな雰囲気が流れ、気分も引き締まりました。天気は快晴、絶好のマラソン日和でした。

陸連登録をしているので最前列グループからのスタートですが、早く並ばないと、号砲から1分以上待たされます。できるだけ前からスタートしたかったので、40分前に並びました。スタートラインから10列くらいのところに並びましたが、問題はトイレです。並ぶ前に済ませていますが、寒さ、朝方のため、ADH分泌は抑制され、直前にかかなり危ない状態になっていました。これはやばいなー、ここでトイレに行ったら、結構並んでるし、後ろからのスタートになるし、マイナス要素しかない、、、と数秒熟慮し、スタート後に近くのトイレに駆け込むことにしました。号砲から10秒くらいで走り出すことができましたが、開始2キロのところでトイレに駆け込み、早くならんだ苦労は水の泡になりました。でも、尿意との戦いからは解放され、一安心。気を取り直して再スタートです。

コースはフラワーロードから元町、神戸、長田、須磨、舞子と2号線を西へ走り、明石海峡大橋の下で折り返し、神戸まで戻り、ハーバーランド付近で2号バイパス道路を上り、ポートアイランドがゴ

ルです。きついのが35キロ付近からの2号バイパスを上るところで、坂と強風が立ちはだかります。

前はサブスリーを目標に、3時間のペースセッターについて行きましたが、今回は自分のペースで走ることにしました。練習不足だったので、序盤はレースペースを維持できるかどうか不安でしたが、須磨まで予定通りのペースで走れました。海釣り公園付近は、眺めがとてもきれいですが、景色をみる余裕は全くありません。舞子の折り返しを過ぎると、追い風が、弱い向かい風になりました。風向きがかわると負担がかなり変わります。まだ20キロを過ぎたところでしたが、昨年よりも疲れている気がしました。20キロから30キロでペースダウンしてしまうと、タイム回復は絶望的なので、ペースを落とさずに走るように気をつけました。須磨水族館から和田岬、中央市場、ハーバーランドと続きますが、細かいアップダウンと、単調な景色のため、気分的にきついところでした。ハーバーランドでは、家族も応援に来てくれているので、みっともない姿は見せられません。

ランナーは応援をもらおうと数分間でもすごいパワーが出ますが、あっという間に過ぎるランナーを長時間待つ、応援側はいい迷惑です。最近、10キロ毎の通過時間がオンラインで確認できるようになっており、応援する方もだいたい何時くらいに通過するかが予想できるようになっています。おかげで、うちの家族も到着する少し前に沿道に出て「笑顔」で応援してくれます。ただ、あらかじめ何時何分くらいに通過すると言っており、約束した手前、意地でも遅れられません。甲斐あってハーバーランドには約束時間と数分違いで通過することができました。ここからポートアイランドへのバイパスが一番苦しいところです。はじめの坂がもっとも急で、何とかペースを維持して走ります。坂を上って少しほっとしたところでややゆるめの坂があと2回待っています。登り切ると今度は橋の上

で風との戦いです。ここを越えればもうすぐや、と自分に言い聞かせながら走ります。ボランティアの方たちが大きな声で応援してくださり、とても力になりました。橋を渡り、ポートアイランドに着くと残り3キロです。強風と坂道で足を使い果たし、ペースが維持できなくなりました。最後2キロは‘ばてばて’でしたが笑顔でゴールすることがで

きました。タイムはグロスで2時間56分15秒でした。

帰り道で神戸大学卒業以来会ってなかった後輩2名に偶然会いました。神緑会へ寄稿する機会もいただき、神戸大学との縁を感じた大会でした。第4回も今から楽しみで、2014年のスケジュール帳に予定を入れています。



## 第3回 神戸マラソンの救護班に参加して

神緑会理事 千谷容子(昭和61年卒)

2013年11月17日に神戸マラソンの救護班に参加しました。神戸市では3回目の大会になり、2万人以上の方が参加しました。当日は気温も10以上あり、穏やかな日曜日でした。マラソンランナーはスムーズにスタートを切り、途中経過はとても順調でした。私はフィニッシュエリアの最も危険な更衣室他の担当でした。午前中は会場の確認やスタッフとの打ち合わせや救護所の確認をただけで早々に昼の軽食を済ませました。現場は私の班の3名と、第15救護所の医師団とスタッフが待機しました。現場出勤班では私が責任者になり、連絡用の携帯電話を渡されました。現場では点呼後次々AEDが各チームに渡され、担当の現場に移動しました。早いランナーが会場に到着し出すと、携帯電話が鳴り出しました。初めは足の筋肉の痙攣で、危険な状態の方はいませんでしたが、午後1時過ぎ、連続して携帯電話が鳴り続け出しました。時間が経つにつれ、脱水症状がある方が増加しました。救護所で休憩しただけで回復された方が殆どでまだ良かったです。ランナーにとって、ゴールしてからほっとする更衣室は最も危険な場所です。筋肉が痙攣して坐りこんでしまっている方が多いので、女性更衣室は女性医師と女性スタッフしか入室出来ない状態でした。男性更衣室は男性スタッフが外

で立ってずっと見張っておられました。意識がなくなった方がいると連絡が入り、一同に緊張が走りました。手の空いている救護所の医師と現場の私達が一斉に更衣室のその方の所に辿り着きました。幸い意識は戻っておられ、皆「良かった」と歓声が上がりました。その方も軽症で済みました。17日は結果的に重傷者が出ず、90%以上の方が完走されました。途中でリタイアされた方は原因は筋肉の痙攣が多かったようです。救護は迅速さとの確な判断力と体力と瞬間の移動能力と救急の経験が必要で、派手な医療行為はなくても難しい仕事です。それがこなせるほど、神戸大学医学部を卒業して循環器科や救急医療をして長い年月が経っていました。長年の趣味のスポーツのおかげでもあります。会場での全員の連携が必要で、救命に個人プレーは不要です。若手の医師にも勉強になると思います。もっと若手に参加して頂き神戸大学に私達の経験と長年の鍛錬で積み重ねられた技術と魂が受け継がれていきますように。今後の後輩の活躍を期待します。



## 第45回

## 医学教育学会「PBL・チュートリアル」口演発表のご報告

医学部医学科 5年 佐藤 文 他学生3名

2013年7月27日、千葉大学医学部で開催された第45回医学教育学会にて、「アンケート調査から考えるPBLの現状と可能性、学生・教員が共に創る医学教育 / 第4期」の口演発表を行いました。発表内容は以下の通りです。

神戸大学医学部医学科5年生の佐藤文です。「アンケート調査から考えるPBLの現状と可能性～学生・教員が共に創る医学教育・第4期～」というテーマについて発表します。よろしくお願ひしませぬ。

神戸大学医学部のチュートリアルは臨床実習の始まる前の4年次の1年間で行われます。各科が1週間担当し、PBL形式で症例について学習します。

神戸大学のチュートリアルは「臨床実習のための準備」と位置づけられています。

神戸大学では教員と有志の学生によって構成される組織があり、これまでPBL形式に適さない外科のチュートリアルを廃止し、また毎年課題症例を見直す、など改革を行ってきました。以前よりは良くなったと考えられるチュートリアルが現在、学生にとって満足のいくものか、よりよくするために何が必要かを知るためにアンケート調査を行いました。アンケートの目的は、「臨床実習のための準備」としてのチュートリアルに対して、学生がどう感じ、どのような問題があるのかを明らかにすることです。

神戸大学医学部医学科4年生に、4年次終了時にアンケートをとりました。

この6つの選択肢に対して、学生が身につけたいものはどれか、また、これら6つの選択肢を身につけるのに役にたったかどうか、そして、臨床実習にむけて足りないものは何か、についてアンケートを行いました。アンケートの回答はすべて複数回答が可能です。

臨床推論力、医学的知識を学生が最も身につけたいと思っていることがわかりました。また、文献検索力をつけたいという意見も6割をこえました。

次に臨床推論力、モチベーション、医学的知識、文献検索力、コミュニケーション能力などについて、それらを身につけるのにチュートリアルが役にたったかどうかという問題に対しては臨床推論力や医学的知識、文献検索能力を身につけるのに役にたったという意見が7割をこえました。コミュニケーション能力に関しては2割くらいの学生しか身につけたいと言っていなかったが、6割近くの学生が身につけるのに役立つと答えています。

次に、臨床実習に向けては、まだ十分身につけていない、足りないと感じるものはどれかというアンケートの結果ですが、臨床推論力や医学的知識に関しては7割以上の学生がまだ足りないと答えている。さきほどの質問で、7割以上の学生が身につけるのに役立ったと答えているにもかかわらず、多くの学生にとって十分でないという結果でした。

そこで、この役にたっているのに、学生が求めるレベルには達していないというギャップをチュートリアルが埋めるために、チュートリアルの改善すべきところについて5つの選択肢でアンケートを行いました。複数回答は可能です。

ここでいうチューターの質とは、チューターが症例に関して深い理解をしているということ、着眼点などの明示とは、議論を進める上でのヒントを明示するということ、診断学の知識とはチュートリアル教育に入るまでの診断学の知識のことをさします。その他は自由回答です。

その他の意見としては、チュートリアルの時間が1時間では短すぎる、チューターの質を確保するためにPBLではなくTBL方式にする、症例を班ごとに変えるなどがありました。

神戸大学のチュートリアルは、学生が身につけたいと考えているものを得るのに役立つとする意見が多かったです。その一方で、「臨床実習のための準備」としては、まだ十分ではないという意見が多かったです。

改善のためには、チュートリアルの改善だけでなく、チュートリアル前に診断学の知識が必要だとい

う意見が多かったです。

それを受けて、神戸大学では、チュートリアルを診療科別から症例別にかえる、学生チューター制度を導入する、チュートリアル前を含めた医学部全体のカリキュラムを見直す、といった改革が検討されています。

9月には学生チューターが試験的に導入される予定です。

質疑応答では、なぜ神戸大学では学生の意見を大

学側が受け止めてくれるのか、どういう仕組みなのかということを知られました。神戸大学のように学生の意見を教育に反映していただける大学は少ないのかもしれませんが。

今後も教員と学生がともによりよい医学教育を作り上げていくことを期待しています。最後になりましたが、発表に向けてご指導くださった先生方・先輩方、神緑会の先生方に感謝を申し上げ、この項を締めくくらせていただきます。

## アンケート調査から考える PBLの現状と可能性 ～学生・教員が共に創る医学教育/第4期～

佐藤文\*1 水木真平\*1 浅井真理恵\*1  
國谷有里\*1 佐藤直行\*2  
金澤健司\*3 河野誠司\*3\*4 岩田健太郎\*3\*4  
橋本正良\*3\*4 苅田典生\*3\*4

\*1神戸大学医学部学生  
\*2沖繩県立中部病院  
\*3神戸大学医学部付属病院  
\*4神戸大学大学院医学研究科

神戸大学医学部医学科

## 日本医学教育学会大会 COI 開示

筆頭発表者名: 佐藤文

演題発表に関連し、開示すべき  
COI 関係にある企業などはありません。

## 神戸大学医学部のチュートリアル

### 目的 『臨床実習のための準備』

- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間           <ul style="list-style-type: none"> <li>– 4年次の1年間</li> <li>– 各科が1週間担当</li> <li>– 週3回(月、水、金)</li> <li>– 1回1時間</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内容           <ul style="list-style-type: none"> <li>– 提示された各科の症例についてPBL形式で学習する</li> <li>– 毎回、課題を抽出し、次回にその課題について調べてきたことを発表</li> </ul> </li> </ul> |
|--|---|

## アンケート調査の方法

- |             |  |
|-------------|--|
| <b>目的</b>   | 改革を重ねてきたチュートリアルに対して、「臨床実習のための準備」として学生がどう感じ、どのような問題があるかを明らかにする。 |
| <b>対象</b>   | 神戸大学医学部医学科4年生 113人   |
| <b>実施期間</b> | 2012年3月(4年次終了時)  |
| <b>方法</b>   | 無記名の質問紙法(選択・記述混合式)   |
| <b>回収率</b>  | 72.6% (82/113人)  |

## アンケート

質問①臨床実習前の4年次の間に学生が身に付けたいものは何か？

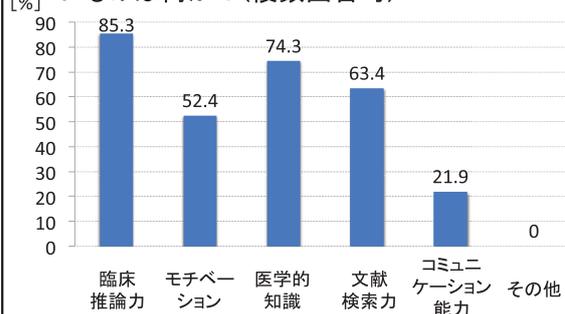
- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨床推論力</li> <li>・ モチベーション</li> <li>・ 医学的知識</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文献検索能力</li> <li>・ コミュニケーション能力</li> <li>・ その他(自由回答)</li> </ul> |
|---|--|

質問②チュートリアルがそれらの項目を身に付けるのに役に立ったか？

質問③4年次終了時点で、臨床実習に向けて身に付ける必要がある、足りないと感じるものは？  
(複数回答可)

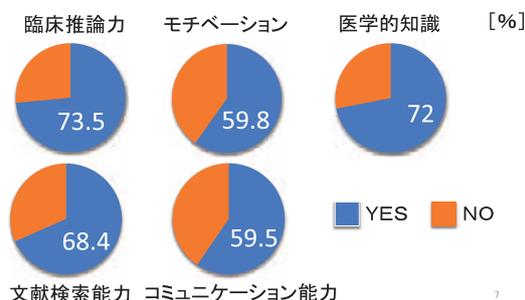
## アンケート結果①

・ 臨床実習前の4年次の間に学生が身に付けたものは何か？(複数回答可)



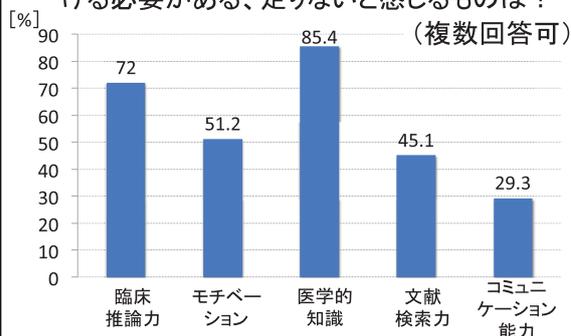
### アンケート結果②

- チュートリアルがアンケート結果①の項目を身に付けるのに役に立ったか？



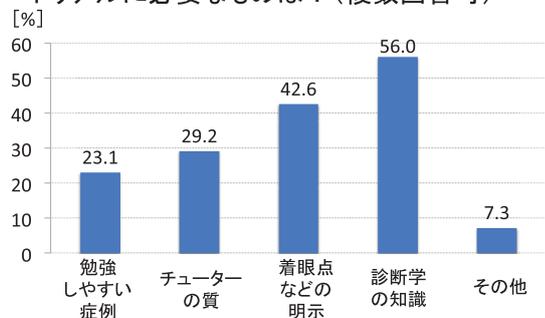
### アンケート結果③

- 4年次終了時点で、臨床実習に向けて身に付ける必要がある、足りないと感じるものは？ (複数回答可)



### アンケート結果④

- 足りないと感じたものを身に付けるためにチュートリアルに必要なものは？ (複数回答可)



### 考察

神戸大学のチュートリアルは

- 身に付けたいと考えているものを得るのに役立つとする意見が多かった。一方で、「臨床実習のための準備」としては、まだ十分ではないという意見が多かった。
- 改善のためには、チュートリアル前に診断学の知識が必要だという意見が多かった。

### 最後に

この結果を受けて、

- ① チュートリアルを診療科別から症候別に
- ② 学生チューター制度を導入
- ③ チュートリアル前を含めた医学部全体のカリキュラムの見直しを検討中である。

学生の自主的学習グループ活動  
ASMEK を神緑会は支援しています。



## 学生文化部・運動部紹介

## ソフトテニス部

神戸大学医学部軟式テニス部主将 3年 坪谷 一 樹

ソフトテニス部は男子30人、女子27人と部員数もとても多く活気に満ちあふれており、男女一緒に週3回練習をしています。大会は4月の関西医歯薬、6月と11月に行われる東海医歯薬、8月の西医体、10月の近畿リーグの計5つがあります。中でも西医体が最も大きな大会で、私たちは西医体優勝・全医体出場を目標に部員一丸となって練習に励んでいます。またソフトテニスは団体戦だけでなく個人戦もあるので、レギュラーだけでなく全員が試合

に出ることができます。

今年は男子近畿リーグ優勝・東海医歯薬準優勝、女子西医体優勝・全医体優勝と男女ともに良い結果を残すことが出来ました。特に男子の優勝は約30年ぶりのことで、非常に盛り上がりました。

オフには部内旅行や花火大会など楽しいイベントもあり、部員の仲を深めています。この部活の一番の魅力は、人と人とのつながりだと思います。同級生はもちろん先輩や後輩のつながりも深く、時には優しく時には厳しく、ソフトテニスだけでなく人間的にも成長できる部活です。



## 硬式テニス部

硬式テニス部 3年 片上 隆 史

神戸大学医学部硬式庭球部は男子34人、女子35人の部員で活動しており、男子は週3回、女子は週2回、学外のコートをお借りして練習しています。夏には西日本医科学学生総合体育大会（西医体）がありますので、大会での勝利に向けて日々練習に励んでいます。

2013年8月の西医体は九州大学の主管のもと、福岡県内のテニスコートで行われました。男子は1回戦敗退という悔しい結果に終わりましたが、女子

は準優勝という華々しい活躍をしました。今号のニュースレターでは女子の西医体準優勝について大きく取り上げさせていただきます。

今大会は、大会前の情報から、「3回戦を突破できるかどうかは壁である」と言われる中で始めました。そして神戸大学は2回戦まで快勝を続け、危なげなく3回戦へ進出しました。3回戦の相手は、大会前の対抗戦でも2勝2敗1打ち切りと互角の試合をし、大きな壁と言われていた滋賀医科大学

でした。結果はダブルス1勝1敗、シングルス2勝1敗で、接戦を制し神戸大学が勝利しました。前日の接戦を制した神戸大学の4回戦の相手は藤田保健衛生大学でした。結果はダブルス2勝、シングルス1勝で、ダブルス2が長時間の接戦を制したことで神戸大学が勝利し、準決勝に出場することになりました。準決勝の相手は九州の強豪校の熊本大学でした。結果はダブルス2勝、シングルス1勝で、最後まで強気に試合を戦ったことによる勝利でした。こうして神戸大学の2年ぶりの女子決勝進出となりました。決勝戦の相手は、他校を圧倒して勝ち上がってきた名古屋市立大学でした。結果はダブルス1勝1敗、シングルス1勝2敗。相手の固い守りを崩せずに惜



しくも敗退したものの、女子は今大会準優勝という結果を残すことができました。

今後も男女一丸となって来年の西医体優勝に向けて日々活動していきますので、暖かく見守って頂けると幸いです。

## ヨット部

神戸大学医学部ヨット部 2年 藤井 康光

本年度西医体ヨット部門は福岡市立ヨットハーバーにて開催され、神戸大は470級において第4位、スナイプ級第4位、総合第4位という結果で大会を終えました。

神戸大は二年連続の総合優勝を果たしていましたが、今回は惜しくもメダルには届かない結果となってしまった。三年連続の総合優勝を果たすべく、一年間部員全員で一致団結し技術の向上、またメンタルの強化に努めてきた結果、今年度も最有力の優勝候補と目されてきました。今回は滋賀医科大学が西医体に戻ってきたこともあり、優勝争いは京都府立医・滋賀医・香川・神戸の4校であると予想していた。今回の海面はブローの強弱が激しく全校レグに苦しんだレースとなりました。全8レース中スナイプ級は1レース、470級は2レーストップフィニッシュを飾るなど素晴らしい結果を残している。今回の惜敗を忘れることなく、世代交

代を終えた新生ヨット部はさらなる技術の向上を目指しすでに始動しています。王座奪還を目指し、毎週の練習にはOBの方々も来て下さり、熱心に指導をしてくださっています。来年度の西医体に期待が集まっている。



## 水 泳 部

4年 孟 順

現在、水泳部は部員53人となり、とても大きな部となりました。部としての定期練習は毎週火曜日に三ノ宮磯上の神戸市立市民福祉スポーツセンター、ポートアイランドのスポーツセンターのプールを借りて練習をしています。練習は自由参加という形を取っていますが、毎年練習参加人数が増え、部として大変嬉しく思っております。また、毎年近医水や西医体などの大会を通して数々の貴重な体験をさせていただき、沢山のいい思い出ができました。

本年度西医体水泳競技は8月8日（木）～8月11日（日）、福岡県立総合プールにて開催されました。

声をからしての応援、大会新記録を達成したときの拍手、西日本のすべての医学部が参加するこの大会は本当に大変盛り上がった大会でした。

そして、肝心の成績ですが、総合順位は男子部12位、女子部10位と、いい成績を収めました。さらに、個人成績に関しては

200m自由形 楠原 達樹（2年）準優勝  
400m自由形 楠原 達樹（2年）優勝  
50m平泳ぎ 佐藤 文（5年）優勝



100m平泳ぎ 佐藤 文（5年）準優勝  
という素晴らしい結果が出ました。

今年ここまで来られたのは全選手の頑張り、マネージャーのサポート及び先生方のご協力のおかげだと思います。もちろん反省点や課題も沢山ありますが、今回の西医体での経験を活かして来年に向けて、さらなる成績アップを目指して頑張っていきたいと思います。

これからも水泳部の応援をよろしく願います。

## 柔 道 部

柔道部主将 2年 板垣 実 幸

柔道部では、週2回の稽古を厚生棟の2階の道場で行っています。練習時間も1時間半程度と短いですが、その分1回1回の練習を集中して行っています。また、練習は多くないので他の部との兼部も可能です。実際、他の運動部との兼部をしている部員が半数を占めています。柔道を中学校や高校でやったことがあり、改めて練習したいという部員も多いです。

試合は6月の近畿8医科大学柔道大会と8月の西医体と9月の関西医歯薬柔道大会の3つです。今年度は西医体で目標の予選突破を果たすことが



平成25年8月 福岡武道館で行われた西医体にて

できたほか、個人戦でもそれぞれ勝つことができました。また、全学の柔道部の三商大戦にも応援で出場することがあります。試合が少ないので、それぞれの大会で少しでも良い成績を得ようと頑張っています。

6回生が引退した現在、部員は1,2回生合わせ

て5名と若干人数が少なくなりましたが来年度以降、新入部員を迎えて規模を拡大していこうと考えています。また、休部となっていた期間が長く、学部内の知名度の向上にも努めていきたいと思っています。どうか応援していただけましたら幸いです。

## 剣道部

剣道部主将 3年 西浦直紀

私たち、医学部剣道部は毎週2回、生協棟2階にある武道場で活動しています。火曜、金曜の6時を過ぎた頃から、生協棟前には竹刀を打ち振るう音が響いていると思います。部員は1回生から6回生まで男子11名、女子14名となっており、女子がやや多い構成になっています。

稽古のときは真面目に真剣な面持ちで練習しますが、稽古が終われば、食事会や飲み会、温泉旅行やうどんツアーなど楽しい行事を、和気あいあいと楽しんでいます。

大会成績でも結果をだしており、平成25年度西医体では、男子団体はベスト16と奮闘し、女子団体は3位という好成績をおさめました。また前年の10月には、大倉山にある中央体育館で、秋期医歯薬医学部剣道大会の主管を務めました。

剣道といえば、敷居が高く、厳しいスポーツであるというイメージがあるかもしれませんが、私たちの部では、大学から剣道を始めた部員がかなり多く、初心者から経験者まで自分の力量にあわせて、日々楽しく稽古に励んでいます。



## バレーボール部

副主将 2年 渡邊 賢

バレーボール部に女子部ができ、早5年が経ちました。今では男子部にも劣らない賑やかさでバレー部に華を添えています。今年は男子部で三人、女子部では四人の一回生を迎え、皆で和気藹々と、それでいて真剣にバレーボールを練習しています。男子部は週三回月木金、女子部は週二回木日に練習しています。部員は限られた練習時間を有効に使えるよう、それぞれの課題を毎回意識しながら取り組んでいます。チームスポーツ特有の壁に当たることもあります。部員全員で一つずつ乗り越えてきました。そんな努力の甲斐あって



今年度の西医体では男子部はベスト8、秋近畿大会では優勝、そして女子部は秋近畿大会での準優勝と素晴らしい成績を残すことができました。現在は毎年神戸大学が主催している日本医歯薬大会で良い結果を出せるよう、部員一丸となって頑張ります。最後になりましたが、日頃からご指導いただき、支えてくださるOB、OGの先生方に感謝申し上げます。



## 競技スキー部

主務 3年 岸本真椰

神戸大学医学部競技スキー部です。前回の西医体では、発足以来初の女子総合優勝を達成することが出来ました。この結果は部員の努力だけでなく、ご指導ご支援して下さった顧問の先生、OB、OGの先生方、コーチ、保護者の皆様のおかげであると心から感謝しております。

競技スキーの西医体は夏ではなく3月にあり、他の部と盛り上がる時期が違います。そんな競技スキー部について、紹介します。

普段は週1回の運動ですが、主な活動は冬休みと春休みにあります。冬は1月初めの関西医学部対抗の大会に向け1、2週間、春は3月末の西医体に向けて2、3週間合宿を行います。義務期間以外の合宿は個人の自由で、1か月以上雪山に籠る部員もいます。

競技スキーとはポールの立てられたコースを如何に速くゴールできるかを競うスポーツです。急斜面でかなりのスピードを出すので時には恐怖心との戦いも必要です。大会では、大勢に囲まれる中、たった一人で出走するのでとても緊張します。



私は競技スキーをとってもやりがいのあるスポーツだと思いますが、神大競技スキー部のなによりの魅力は、合宿で長い期間寝食を共にするので、部員

同士が家族のような存在になれるということです。これからも変わらず楽しく有意義に活動していきたいと思います。

## ハンドボール部

主務 1年 末 宗 和 樹

私たちハンドボール部は、日々大会に向けて鍛錬し、真剣に、そして楽しく部活動に励んでいます。私たちの部活は、1997年設立ということで決して歴史の長い部活ではありませんが、昨年の秋季医歯薬リーグでは一部優勝を果たし、それ以降の大会でも好成績を残し続けています。今年度の西医体では第7位という結果に終わり、満足のいく結果とはなりません。また、医歯薬大会では、好成績とはいえ、今年度はすべての大会で準優勝となったものの、あと一步のところまで目標である優勝を逃したままで終わってしまいました。しかし、長年部員不足に苦しんでいた我が部もここ数年で着実に部員数を増やしており、部員一同も医歯薬

リーグ優勝や西医体優勝を目標に、やる気に満ち溢れていますので、今後は更なる躍進ができるものと確信しています。これからも私たちハンドボール部への応援をよろしくお願いします。



## フットサル部

主将 神戸大学医学部医学科 2年 土 井 一 輝

こんにちは。神戸大学医学部フットサル部です。私たちは部員30人ほどで、週に1回、大倉山キャンパスの体育館で活動しております。春の近畿・中国・四国の医学部による大会（近中四）や、夏の全国の医学部による大会（オールメディカル）を目標にして練習に励んでいます。2013年オールメディカルでは全国5位という成績を残すこともできました。また、兵庫県のフットサルリーグにも所属しております。

他の部と比較し、引退したOBさんも部活動によく顔を出して下さるため、1～6回生までもとも仲がよいことが特徴です。そのことに加え、ユニークな人が多いため、いつも笑顔の絶えない部活

となっています。しかし、ただ楽しいだけではなりません。社会的なこと、たとえば礼儀やルール、上下関係といったこと、を教えるといった部活としての義務を果たし、より有意義な活動にしなければならないと考えております。



## 篤志家からのご寄付

昨年10月26日に開催された第8回ホームカミングデーにおいて、神緑会では医学部協賛事業としてYIA（ヤングインベスティゲーターアワード）を実施しました。

これに一般参加されていた卒業生のご父君から、「YIAに感動した。神緑会活動を支援したい。」との申し出があり、後日に多額のご寄付をいただきました。

また、このYIAや名簿発行、2月1日に開催した学術講演会等に対して、役員や会員の先生からもご寄付をいただきました。

神緑会としましては大変ありがたいことで、金額の多寡よりも神緑会の活動にご理解をいただいたことに篤く感謝し、今後の励みにいたしたいと思えます。

ありがとうございました。

## 新病院長に藤澤教授

～神戸大学医学部附属病院～

神戸大学医学部附属病院では、平成26年2月1日付けで神戸大学大学院医学研究科外科系講座（腎泌尿器科学）の藤澤 正人（ふじさわ まさと）教授（59年卒）が新病院長に就任されました。任期は平成29年1月31日まで

## 編集後記



- 今年度最後のニュースレター第5巻第4号は、発行開始以来の分厚さとなりました。それでも圧縮した結果です。総会事項以外は積み残しの整理でもあります。読まれずにゴミ箱に直行する事が多いとされる皆さんの行動への抑止力となるか、今週号の内容は多岐にわたる。総会での表彰対象となった教授・病院長就任、荣誉者は8月発行予定の学術誌で詳細履歴紹介となります。メモリアルも平成16年卒で交通事故死なので注意喚起として大きく扱いました。神戸大学の今、学部長・学科長のメッセージ、学生の部活10の紹介は、しばしのゴミ箱行きが猶予されると有り難いです。この内容は、年度当初一巻分しか集まらなかった広告が4巻ともに必要量が確保できた。ノーベル賞特集以上の効果は驚き！

### 編集委員：

梶田明義	昭和34年卒
久野克也	昭和48年卒
中野康治	昭和52年卒
三浦靖史	平成元年卒
尾藤利憲	平成3年卒
吉田 優	平成4年卒
小林和幸	平成9年卒
	は編集委員長

### 編集委員募集中

sinryoku@med.kobe-u.ac.jp